

第4章 保存整備の資源と課題

第1章から第3章でまとめた、史跡と史跡周辺の現状や諸条件をもとに、史跡の整備における資源又は課題となる要素を一覧にまとめた。

今後史跡の整備を進めるうえで、資源は活用すべき要素であり、課題は解決すべき要素である。

(1) 自然的要素

要素	資源	課題
植生	<ul style="list-style-type: none"> ・自然林の可能性のあるアカマツ～コナラの混交林。 ・希少種ヒメサユリ、オオウバユリの群生など貴重な草本類。 ・ヤダケやシャガなど城郭特有といわれる植物。 ・クルミやクリ、カキなど食用となる植物。 ・国産種や花が楽しめる樹木と草本類。 ・樹高が一定で地形表示の役割を果たすチマキザサ。 ・切岸や急崖などをカバーし地形保全に貢献している植生。 	<ul style="list-style-type: none"> ・史跡とその周辺の希少種や天然林等の保全。 ・二次林の適切な管理。 ・植生による地形の保全。 ・眺望環境と景観に配慮した植生の整理と制御。 ・松くい、ナラ枯れ、天狗巣病など病害虫対策。 ・枯木や漆など危険がある植物に対する見学者の安全確保。 ・有用植物や花木の利活用。
地理 地形 地質	<ul style="list-style-type: none"> ・最上川の五百川溪谷出口で交通の要衝に位置する左沢。 ・最上川・檜木沢に面した急峻な崖を要する丘陵の自然地形。 ・直下に最上川を見下ろす立地環境。 	<ul style="list-style-type: none"> ・急斜面地形の崩落防止と維持。 ・稲沢山層露出部の風化・侵食への対応。 ・谷型地形部分を中心に雨水など水の処理。
気象	<ul style="list-style-type: none"> ・四季の変化が豊かで、変化がある折々の景観。 	<ul style="list-style-type: none"> ・冬季の凍結と積雪。 ・雨季の土砂災害。

(2) 文化的要素

要素	資源	課題
地勢 と 景観	<ul style="list-style-type: none"> ・最上川の地形から舟運の川舟を転換する河岸が左沢に成立。 ・置賜からの往来などが交差する、陸上交通の要衝にあたる左沢の位置。 ・千畳敷地区や楯山公園から最上川を直下に臨む眺望。 ・最上川舟運の流通・往来と西部農山村との互恵関係をもとに成立した左沢の景観。 	<ul style="list-style-type: none"> ・町景観計画、文化的景観（「左沢と最上川の流通・往来の景観」）とが連携し、左沢市街地や最上川と一体となった良好な景観の創出。 ・市街地や最上川から左沢楯山城跡へ眺望の確保。 ・地形や最上川、城下などを意識した視点場の発掘と眺望の確保。

要素	資源	課題
歴史と文化財	<ul style="list-style-type: none"> ・大江氏による中世西村山郡の支配の歴史。 ・最上川舟運の歴史。 ・町内の遺跡と文化財。 ・左沢楯山城の時代から、暮らしの積み重ねが形成した文化的景観。 	<ul style="list-style-type: none"> ・町による資料等の調査。 中世から近世・近代の文書、絵図や仏像、石造物など資料の掘り起こしと分析、研究の実施と継続。 ・町による文化財の指定と保護。 ・継続的に調査成果を活用する体制の整備。 ・文化財の本質的価値を生かした活用とそれを通じた地域のアイデンティティの創出。

(3) 社会的要素

要素	資源	課題
人口産業	<ul style="list-style-type: none"> ・左沢の商店街 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 32 年で 8,133 人、平成 42 年は 7,006 人、平成 42 年には老年人口割合が 43.5%という将来の人口減少と高齢化の予測。 ・地域資源や地域ニーズに着目した産業創出（町総合計画）に資する史跡や文化財の活用。
土地利用	<ul style="list-style-type: none"> ・中近世の歴史を背景に左沢に集積された市街地。 ・史跡地内の「楯山公園」（「日本一公園」）。 ・「朝日少年自然の家」活動地。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大江町の上位計画や景観計画・文化的景観との調整。 ・史跡内で公有化した元耕作地の管理と利用。 ・「楯山公園」「朝日少年自然の家」など施設の活用と連携。
交通	<ul style="list-style-type: none"> ・J R 左沢駅。 ・元屋敷から楯山公園への遊歩道。 	<ul style="list-style-type: none"> ・左沢市街地から左沢楯山城跡への動線の確保と案内。 ・史跡への車両によるアクセスの計画と整備。
観光	<ul style="list-style-type: none"> ・温泉や神通峡など多彩な資源の存在。 ・「水郷左沢」に年間 83,600 人（H 22 年度）の観光客。 ・観光ボランティアガイドによる案内と「左沢まちなか歩き観光」の実施。 ・楯山公園、最上川ビューポイントとしての P R。 	<ul style="list-style-type: none"> ・町内の史実や歴史的特性に根ざした資源の発掘。 ・文化財サイドから調査成果を基にしたアプローチと観光サイドとの連携。 ・楯山公園を含む史跡について山城跡としての位置付けと利活用。 ・国史跡としての広域連携。
教育	<ul style="list-style-type: none"> ・町内に小学校 4 校（休校除く）、中学校 1 校、高等学校 1 校（平成 24 年 3 月現在）。 ・左沢楯山城跡に近接する左沢小学校。 	<ul style="list-style-type: none"> ・郷土史学習に資するなど学校教育との連携。 ・社会教育への史跡の活用。

(4) 史跡の本質的価値に関わる要素

要素	資 源	課 題
大江氏	<ul style="list-style-type: none"> ・大江広元から寒河江大江氏が支配した寒河江荘の歴史。 ・南北朝期の斯波氏と大江氏の抗争。 ・最上家の内訌や伊達氏と関わる、左沢氏を含めた大江一族の合従連衡。 ・最上義光との抗争。 ・大江氏ゆかりの供養塔や寺院。 ・大江氏にまつわる伝承。 	<ul style="list-style-type: none"> ・史実の追求、史資料の位置づけなどの調査研究。 ・体系的な記録の整理と公開。 ・伝承や資料の継承と伝承する後継者の確保。 ・大江氏に関わるネットワークの構築やPR。
中世城館	<ul style="list-style-type: none"> ・最上川沿いと月布川沿いに濃厚な密度で分布する城館跡。 ・町内 30 箇所の中世城館跡と、西村山郡一帯に分布する中世城館跡、大江氏関連の遺跡群。 ・村山地方の本城一支城体制と規模が突出した左沢楯山城跡と小規模な城館が分布する大江町の城館分布状況。 ・天正後半以降の改修の痕跡がみられる町内の城館跡。 	<ul style="list-style-type: none"> ・町内における中世城館跡の現状の把握。 ・学術的な調査研究の継続と中世城館の解明。 ・保護のための調査研究と保護の実施。
左沢楯山城の遺構遺物	<ul style="list-style-type: none"> ・城の存続期間や性格をあらわす遺物と遺構。 ・堀切や切岸など城の構造に関わる地形。 ・城の中核をなす「八幡座」「ゴホンマル」周辺の曲輪群と地下の掘立柱建物跡。 ・石組遺構や大陸産の陶磁器が出土した「寺屋敷」と周辺の曲輪群。 ・地下室と推定された遺構が検出された、最上川を見下ろす「千畳敷」。 	<ul style="list-style-type: none"> ・最上川との関係や居館跡など、左沢楯山城跡の総体的な特性の解明。 ・登城路の解明。 ・建物の変遷や曲輪の機能、使用状況の解明。 ・保存・整備のための発掘調査。 ・追認調査が行えるよう保存に配慮し、目的を明確にした発掘調査と記録の管理。

第5章 基本構想

第1節 保存整備・活用の方針

(1) 全体の方針

「町の宝」として「左沢楯山城」が現す歴史から学び、未来へ向けたまちづくりへ資する。

- ・ 「町の宝」 国の史跡としての位置付けのほかに、大江町の「町の宝」として、観光や憩いの場など多角的な活用をおこなう。
- ・ 住民の参加 左沢楯山城跡保存整備の計画、管理・運営、活用について住民が参加する取り組みとする。
- ・ ネットワークの構築 近隣の大江氏の遺跡や伝承と有機的な関係を構築し、また、町内の文化的観光資源などと連携して活用を図る。
- ・ 景観の創出 史跡内で良好な城跡の景観を創出するとともに、城跡を最上川や市街地から見上げた景観や、城から外部を眺めた景観の創出は、左沢の土地利用の特徴を踏まえ文化的景観と連携して実施する。
- ・ 史跡の魅力・歴史の探求 登城路や居館地区など、史跡本来の価値や魅力に関わる調査研究を継続する。
- ・ 価値の保存と真実性の担保 中世から近世初頭に造られた山城の遺構等の保存を前提とする。遺構の表示に関わる整備は山城の遺構で真実性を確保できるものに限定する。

(2) 事業の進め方に係る方針

① 全体 短期的なⅠ期とⅡ期以降の長期的目標をそれぞれ設定し調査や整備を実施する。

② 第Ⅰ期

「第Ⅰ期（～29年度）整備」は、登城路の解明を進めながら、一方で、地形や遺構保全と来訪者の安全確保の観点から動線（散策路）を設定する。

あわせて左沢楯山城の地形、最上川に近接した立地、豊かな植生を生かして山城跡の景観を整備する。

③ 第Ⅱ期以降 第Ⅱ期以降の長期的な整備では、今後の調査成果をふまえて、歴史的特性や城館の特徴をより生かし表現した整備を検討する。

(3) 本質的価値の保存に係る方針

① 本質的価値を構成する要素

本史跡の本質的価値を構成する要素は中世から近世初頭の山城の機能と関係する地下遺構や遺物、城跡としての地形である。未発掘地には遺構や遺物が包含されていると考えられる。特に建物遺構等が予測される平坦面に留意する。

また、中世山城としての立地環境（急崖や最上川と近接した地形）や、それが見える眺望環境も本質的価値を構成する要素に準じるものとする。

具体的な個々の要素については「保存管理計画書」（2010年刊行）を参照とする。

② 地下遺構・遺物

[現状の保存]

地下遺構・遺物は現地で現状のまま保存することを原則とする。

[保護措置の実施]

土の流出や人の立ち入りにより遺構が露出したり地山が露出し斜面が風化や侵食を受けるなど、毀損につながる状態を避けるため、必要に応じて盛土や植栽などの保存措置を検討する。

[発掘調査]

発掘調査は必要性が明確な場合実施する。調査時に左沢楯山城と関わる時代（中世から近世初頭）以前の遺構や遺物が検出されても、地形や中世～近世の遺構面を毀損するような掘削はおこなわない。

③ 地形

[現状の保存]

現況の地形を維持することを原則とする。史跡の整備として復旧や防災、地形の維持措置など明確な目的のもとに実施する以外の人為的要因による地形の改変は極力避ける。

ただし、明らかに現代の造作である地形はこの限りではない。また、城としての本来の地形が発掘調査などで明確になった場合、本来の地形を生かすための改変もこの限りではない。

[整備]

散策道を設置するなど、地形の改変を伴う整備をおこなう場合、全体的な計画を策定し、史跡に対する影響を明確にしたうえで現状変更を実施する。

[復旧]

土砂崩れなど自然的要因による地形の変化に対処する復旧などの措置は、必要に応じて個別に実施する。

(4) 遺構の表示に係る方針

① 地下遺構の表示

第Ⅰ期整備において大規模な曲輪内の建物遺構表示は平面・立体ともにおこなわない。ただし整備のための調査で、曲輪全体の遺構が確認できた曲輪では、調査成果を生かした表示を検討する。

規模の大きい掘立柱建物跡や、面積の広い曲輪の地下遺構の現地表示は、第Ⅱ期以降の長期整備で検討する。また第Ⅰ期整備では、可能な場所のみサイン（説明板）による検出遺構や出土遺物の表示を実施する。その内容は整備時点で最新の調査報告に基づくものとする。

② 城跡の地形の表示

第Ⅰ期整備の動線設定（散策路設置）にあたり、主要な曲輪をつなぐ新しい道が必要な場所では調査で虎口などを確認して、その成果を生かした動線を設定する。また、城本来の道と、公開・活用に資するために設置した道を明確に区別して散策路を設置する。

あわせて、地形保全への影響を考慮しつつ現在残っている地形から切岸などの形状が分かるように、効果的な植生の整備・制御をおこなう。

第Ⅱ期整備以降は、今後の調査成果を踏まえて別途検討を行う。

（5）公開・活用に係る方針

① 範囲とハード整備

第Ⅰ期整備対象として公開をおこなう範囲は、これまで及び今後の発掘調査結果のほか、自然環境や景観、または文化的な観光資源、憩いの場など「町の宝」としての機能をふまえて決定する。

なお、第Ⅰ期整備が将来の保存整備に支障をきたさないよう配慮し、第Ⅱ期以降の整備は、第Ⅰ期整備後に検討する。

② ソフト面の整備

リーフレットや調査報告書・整備構想策定の報告書等で、継続的な情報発信を図る。またリーフレットやサインの説明は、図や写真を利用して分かりやすいものを作成する。

切岸や急崖など地形的特性や遺構の保全面から、散策路や階段など公開活用ための施設について、バリアフリーの設計が困難な場所については、あらかじめ周知できるようなサインやツールを整備して来訪者の安全確保を図る。

学校教育や社会教育と連携して郷土史学習に資するプログラム、大江氏関連や町の宝としてのネットワークを考慮したシステムやツールの開発を目指す。

③ 活用・管理・運営体制の整備

住民参加を図り、将来的には住民・専門家・行政の三者が協働で、史跡の活用、管理・運営に取り組む。史跡整備後の活用や運営に住民の参画を図るため、ワークショップなどをおとして、整備計画策定段階から意見を集約する。

管理団体として史跡の維持管理や保存整備、発掘調査は大江町教育委員会が主体となり実施する。保存整備や調査を進めるにあたって、学識経験者による委員会を設置し、歴史学や考古学などの専門家から指導を仰ぐ。

あわせて「左沢楯山城史跡公園」として、条例に基づいた公園としての管理は町教育委員会が主体となる。

第2節 ネットワーク

(1) 大江氏関連遺跡群など

左沢楯山城跡は、正平年間左沢元時によって築城されたといわれる大江氏の代表的な城跡であり、西村山郡の中世から近世初頭の歴史の一端を今に伝える城跡である。

そのため大江町内でも、貫見に分布する大江高基関連の伝承や小漆川の古戦場跡、左沢楯山城跡内にあったと伝わる社寺や最上川を生かして、左沢氏を含めた大江氏と関わる歴史の顕彰を目指す。

併せて、資料等については、過疎化や高齢化による後継者の問題が存在するため、資料等の散逸を防ぐ措置を検討する。

将来的には、西村山郡周辺に広がる寒河江城、白岩城、慈恩寺城館群（寒河江市）、溝延城（河北町）、吉川館、睦合楯（西川町）、ハツ沼城（朝日町）などの主要な中世城館を中心とした大江氏に関連する遺跡のネットワーク構築を目指す。

調査研究とそれに基づいた保護措置が必要であることから、これを進めながら取組みを行う。

(2) 「町の宝」としての位置付け

史跡左沢楯山城跡は「町の宝」として町の「短期行動計画」でその利活用の検討を進めること、「教育振興計画」では利活用のための保存・整備を進めることが定められている。また現在も史跡内の「楯山公園」は、観光ルートや最上川フットパスといった既存のネットワークに含まれ利用がなされている。

史跡の保存整備においても、「町の宝」として既存の「楯山公園」の利用を考慮し、文化的な観光資源や憩いの場といった多角的な機能を踏まえる。将来的には「楯山公園」だけではなく「史跡左沢楯山城跡」として、町の観光資源や公園として認識され、町の観光ネットワークや町づくりに取り入れられるように取組みを進める。

(3) 文化的景観との連携と役割分担

大江町では平成20年度から大江町の文化的景観保護推進事業に取組み、国の重要文化的景観選定を目標として調査を実施している。史跡左沢楯山城跡は「左沢の文化的景観（仮称）」の範囲内に位置し、山城跡は左沢の景観を構成する重要な要素である。

そのため、史跡指定地内外の景観整備やネットワークの構築、保護措置の実施にあたっては、文化的景観に関わる取組みと連携しながら役割分担を図る。

史跡指定地内の保存管理と保存整備は、史跡の保存管理計画や基本構想など、史跡としての管理や整備の計画をもとに実施する。史跡指定地外も調査対象に含まれる登城路の解明や居館地区の調査研究については、史跡に関わる取組みとする。

一方、史跡の保存整備において、山城の廃城以降も左沢における生活で、楯山が利用されたことをあらわす要素、植生にみられる二次林、日本一公園や最上川ビューポイントとともに形成された景観認知などについては、文化的景観としての評価を考慮する。

文化的景観保護の取組みでは、史跡から眺めた最上川と左沢市街地景観の保全を図る。

さらに左沢楯山城跡を含めた町巡りなど、左沢地区と左沢楯山城跡が一体となった活用は、史跡として明確になった城跡の特徴や価値を踏まえ、文化的景観の取組みを中心にネットワークの整備を図る。

第3節 将来的な保存と整備対象の検討

遺跡としての左沢楯山城跡は、これまでの調査から東西 1.7 km、南北 0.8 kmとされ、史跡指定地周辺の丘陵部、「裏山」「愛宕山」なども周知の埋蔵文化財包蔵地として遺跡台帳に登載されている。また、居館の所在地として元屋敷が推定されるなど、現在、埋蔵文化財包蔵地として認知されている範囲外にも関連遺跡が広がる可能性がある。そのため史跡の保存管理計画では、「裏山地区」「愛宕山地区」「元屋敷地区」を設定している（『史跡左沢楯山城跡保存管理計画書』参照）。

現時点では発掘調査実施の有無など、場所により調査の進み具合にも差異があり、最終的な保存整備の対象範囲確定が困難な場所がある。そのため保存整備について、その必要性を含め検討する必要がある範囲は、史跡指定地を含めた周知の埋蔵文化財包蔵地左沢楯山城跡の範囲、曲輪の地形がみられる裏山・愛宕山地区内、元屋敷周辺として、今後の調査成果に基づいて、段階的に範囲を整理しながら保護措置や保存整備を進める。

第Ⅰ期の保存整備は、史跡指定地内の「八幡座地区」「寺屋敷地区」「千畳敷地区」「八幡平（楯山公園）地区」「蛇沢地区」における散策路の設置と植生の整備を中心として計画を行なう（第6章）。

第Ⅱ期以降は、最上川に面した「千畳敷地区」や「八幡平（楯山公園）地区」について、登城路や機能の解明を進め、川を含めた特徴を生かした整備を目指す。あわせて「大滝地区」と「桜瀬橋地区」の川や市街地に面した斜面の環境整備を検討する。

また「八幡座地区」「寺屋敷地区」「千畳敷地区」の中心となる曲輪については、今後の調査成果を生かして、城の構造が分かるように、発掘調査で検出された遺構の平面・立体表示など、整備の手法を適宜検討する。

なお「檜木沢地区」は、随時急斜面の状況を監視、情報収集をおこなって、崩落防止措置や復旧措置が必要となった時点で対策を検討する。

史跡指定地外で居館が推定される元屋敷周辺は、居館地区の存在と位置及び範囲確認が必要である。埋蔵文化財としての適切な取扱いを行えるよう、調査と保存の措置を検討する。裏山や愛宕山も同様とする。

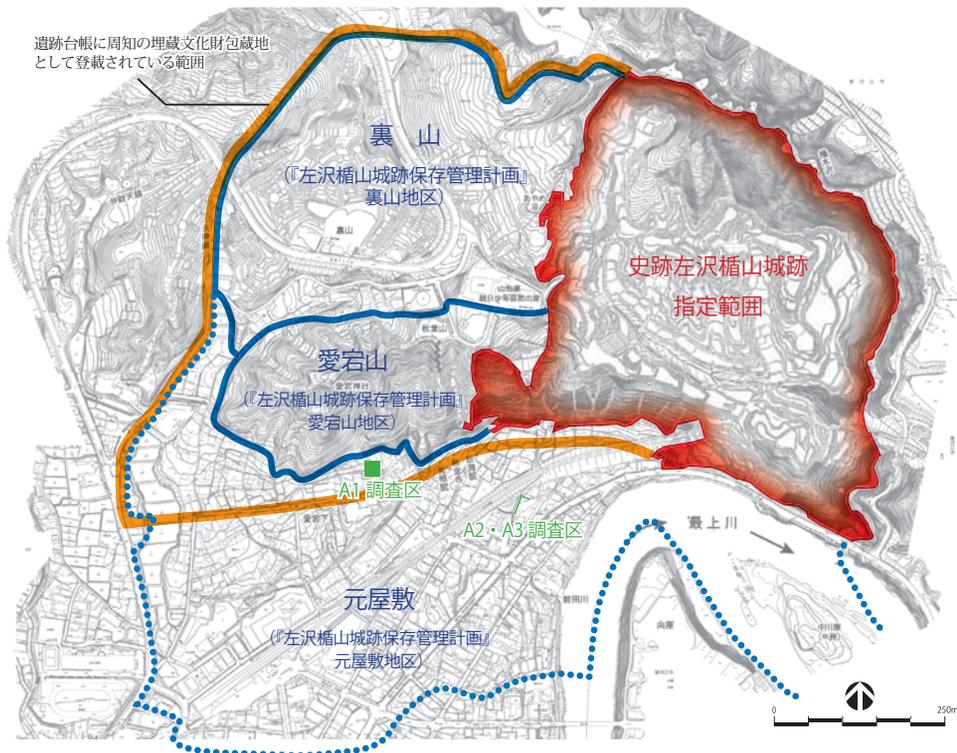


図5-1 保存整備検討範囲の考え方

第6章 第Ⅰ期保存整備

第1節 方針とコンセプト

(1) 全体方針と対象範囲

第Ⅰ期整備では、登城路の解明を進めながら、地形や遺構保全と、来訪者の安全確保の観点や楯山公園利用の観点から動線を設定し、散策路や案内板など必要な施設・設備を設置する。あわせて左沢楯山城の地形や最上川に近接した立地、植生などの豊かな自然環境を生かして山城跡の景観を整備する。主な対象範囲は「八幡座地区」「寺屋敷地区」「千畳敷地区」「八幡平（楯山公園）地区」「蛇沢地区」とする。

八幡座地区と寺屋敷地区では、主殿と考えられる建物跡や石組と大型の掘立柱建物跡など、重要な遺構が検出されており、千畳敷地区では最上川を眼下に見下ろす立地から川との関係がうかがえる。八幡平（楯山公園）地区には、便益施設が設置され「日本一公園」として町民から親しまれている楯山公園が含まれる。蛇沢地区には部分的に舗装された砂利道があり、史跡の管理に利用されている。

山城の構造を生かす観点から前者3地区、史跡活用の観点から後者2地区を、第Ⅰ期整備の対象範囲とする。対象外の地区は、植生環境や水に留意して急斜面の見回りを行うなど、保存管理計画による管理を実施する。ただし大滝地区については、第Ⅰ期整備の対象範囲から最上川への眺望に支障をきたす場合、樹木の整理を検討する。

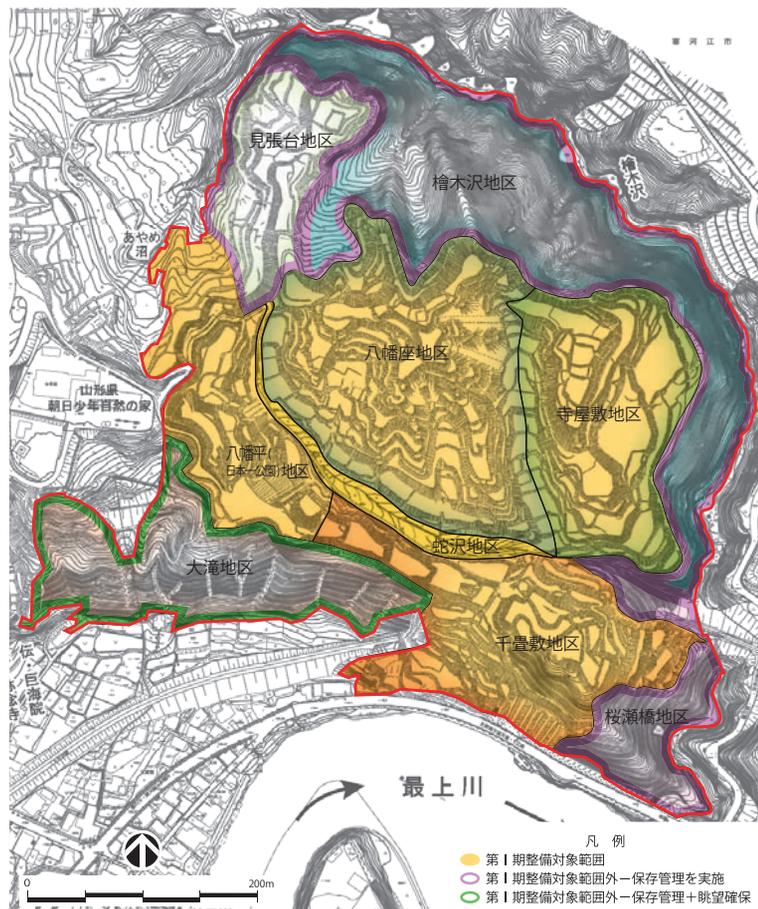


図6-1 第Ⅰ期整備の対象範囲

(2) コンセプト

- ・ 城跡の地形と自然環境の両面を活かした散策路

城本来の道を取り込みつつ、堀切や切岸、連続した曲輪群や最上川を見下ろす立地など、城の構造を生かした動線を設定し散策路を設置する。散策路周辺では要所の眺望環境を整えるだけでなく、山城跡として良好な景観を創出するよう環境を整備する。

設置する散策路は、動線の基本とすべき登城路が未解明である現状を踏まえ、現時点で最良の位置・手法を選択したものとする。

- ・ 「町の宝」としての環境整備

大江町の歴史に触れる良質な郷土学習の場、文化的な観光資源、最上川を眺める憩いの場など、「町の宝」としての機能を果たすための環境整備をおこなう。

史跡保存のため来訪者に不便をかける場所、城の防御構造を体感できるようあえて急斜面を通る散策路などには、サインやソフト面の工夫により注意喚起と安全確保を図り、多くの人が「町の宝」の山城跡を来訪して城の魅力を発見できるようにする。

- ・ 大江氏関連遺跡としての情報発信と連携

大江氏に関わる代表的な遺跡という位置づけのもと、調査研究や保存整備について継続的な情報発信をおこない、大江氏関連の遺跡等との連携を目指す。

- ・ 文化的景観を生かしたネットワーク

最上川の五百川溪谷出口で水陸交通の要衝に位置する環境、中世山城から現在の市街地まで、最上川とともに当地で営まれた暮らしの積み重ねが形成した左沢の景観構造をふまえ、文化的景観と連携したネットワークの構築を図る。

- ・ 住民が参加する城跡の整備活用と管理・運営

ワークショップなどを通して住民の意見を集約し、整備活用に住民参加を図り、将来的に保存会などの体制の整備を目指す。

第2節 第Ⅰ期整備の計画

(1) ゾーニング

第Ⅰ期整備計画の対象範囲を、整備の方法や活用における機能から5つのゾーンに分ける。

- ・ 遺構表示ゾーン（図6-2 オレンジ色部分）

発掘調査の成果を生かして、城の最高点「八幡座」の地形や虎口の表示、可能であれば建物遺構の立体表示を実施し、城跡を体感できる空間を創出する。

- ・ 修景整備ゾーン（図6-2 黄色部分）

現在も残る地形を生かして、曲輪や堀切など城跡の地形が分かるような整備をおこなう。堀切や曲輪群など城の防御構造の形状が良好に残る場所などを対象とする。

整備手法としては、地形が分かるように樹木の伐採やツル植物の除去など植物を整理する。また、調査で判明した城本来の道を生かした散策路を設置する。なお、必要に応じて、急斜面の崩落防止措置を同時に検討する。なお植生の整備対象範囲が広大であることから、第Ⅰ期整備において植生整備の完了は困難であり、第Ⅱ期整備以降も継続するものとする（以下、植生管理ゾーン・地形保全ゾーンも同様とする）。

- ・ 植生管理ゾーン（図6-2 薄緑色部分）

城内や城外へ良好な眺望を確保するための整備を行う範囲である。「寺屋敷」上部の曲輪と「千畳敷」の間など主要な曲輪間の見通しや散策路から「修景整備ゾーン」への眺め、史跡内から南側の最上川や元屋敷への眺望が確保されるよう、植生の整備と管理をおこなう。

- ・ 地形保全ゾーン（図6-2 ピンク色部分）

現在の環境を保全し、地形を保護する範囲である。前出の2ゾーンの外で、縄張が明確にされている範囲が該当する。地形や地下遺構に影響を与える樹木と水の処理を検討する。

- ・ 便益施設ゾーン（図6-2 水色部分）

現在利用されている「楯山公園」を活用する範囲である。公園表土の流出や車両の乗り入れ、崖からの転落防止措置等について、城跡の地形を考慮しつつ対策を講じる。



蛇沢沿い（4月 植物が繁茂する前）



蛇沢沿い（9月 植物が繁茂する時期）

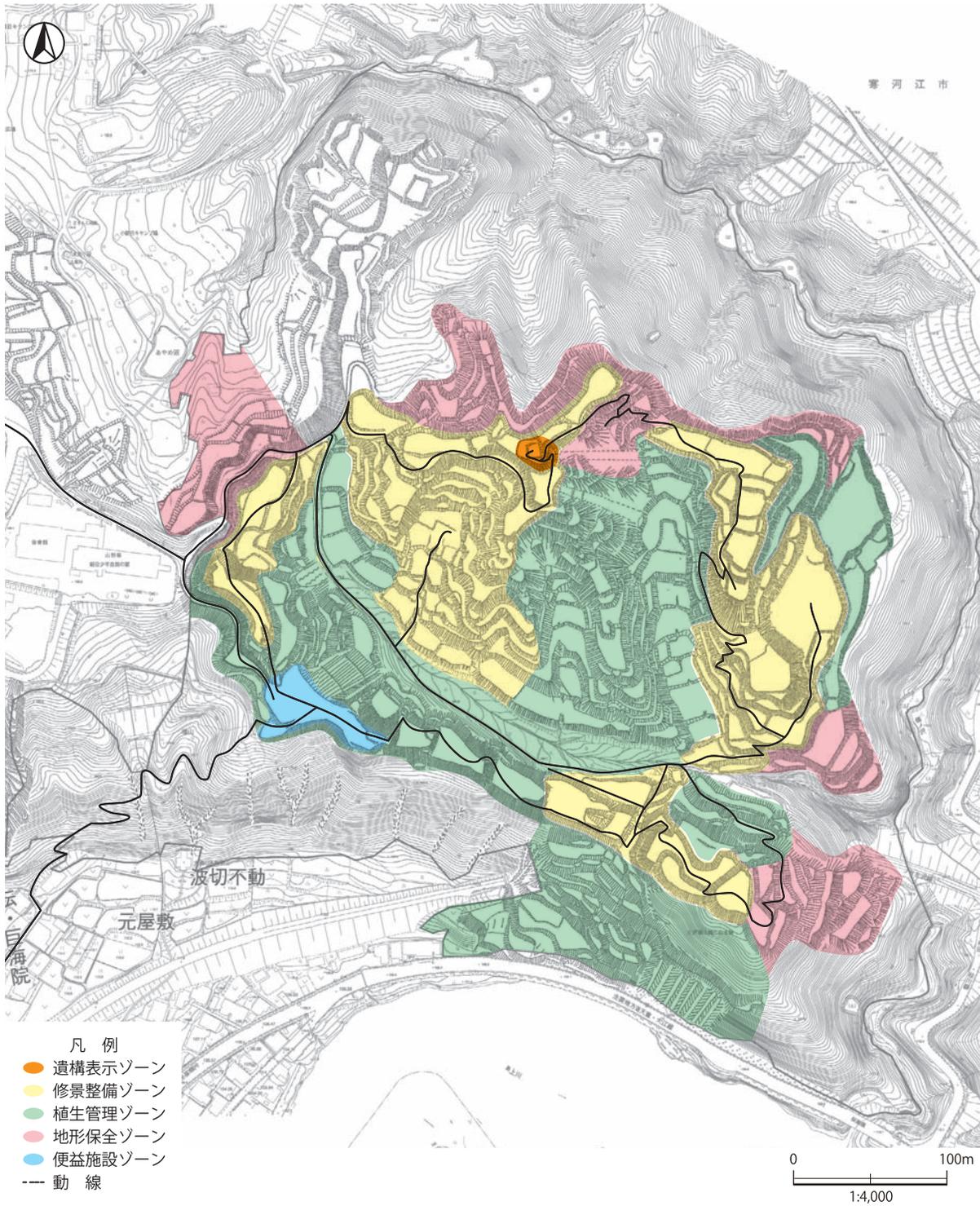


図6-2 ゾーニング図

(2) 遺構表示ゾーンの整備

史跡最頂部を占め、面積が120㎡程度の「八幡座」では、遺構の養生と城本来の地形と虎口を利用した曲輪出入口の通路整備、調査成果によっては建物遺構の表示を検討する。

「八幡座」では平成13年度、部分的な発掘調査が実施されている。保存整備を検討するにあたって、平成23年度から24年度までを予定して全面的な発掘調査を進める。平成23年度の発掘調査では、2間×2間の掘立柱建物跡が検出されている。

整備手法としては遺構と遺構面の岩盤を埋め戻しと盛土で保護しつつ、当時の地形を生かすような整地を施し、その上に建物遺構の立体表示を検討する。

曲輪入口は虎口を生かしたものとし、曲輪入口の施設について表示を検討する。

併せて周辺樹木の整理やサイン（説明版・名称版）の設置により、山城としての景観整備、空間の創出を図る。



「八幡座」調査区北部（南から）



「八幡座」調査区南部（西から）



「八幡座」坂虎口状の地形



遺構表示の例（群馬県金山城）



遺構表示の例（山形県丸岡城）

(2) 便益施設ゾーンの整備

「楯山公園」は観光地であり、利用者が訪れ車両が乗入られている。公園の四阿や電燈は地表の土が流出して基礎が露出し、近年も危険防止のため工事がおこなわれている。また南側の崖からは、車両の転落も発生しており、公園利用のための安全対策が必要な場所である。

第3章2節に記述した通り、昭和40年代の工事によって楯山公園北側は、現在の朝日少年自然の家部分にあった丘陵の土が盛られている。さらに、土の流出もあって地形が変化している。

このような楯山公園周辺の安全対策については、早急な対応が望まれている。そのため、平成24年度からトレンチによる発掘調査で、昭和の公園整備で土が盛られた範囲と元の尾根が広がる範囲を確認する。元の地形を利用して公園内に段差を設け、車両の乗り入れを制限するとともに、表面の処理によって地表の流出を防止し、既存施設の安全対策を図るよう取組を進める。

併せて車両が転落した公園南側の崖についても、柵の設置など事故防止の対策を検討する。

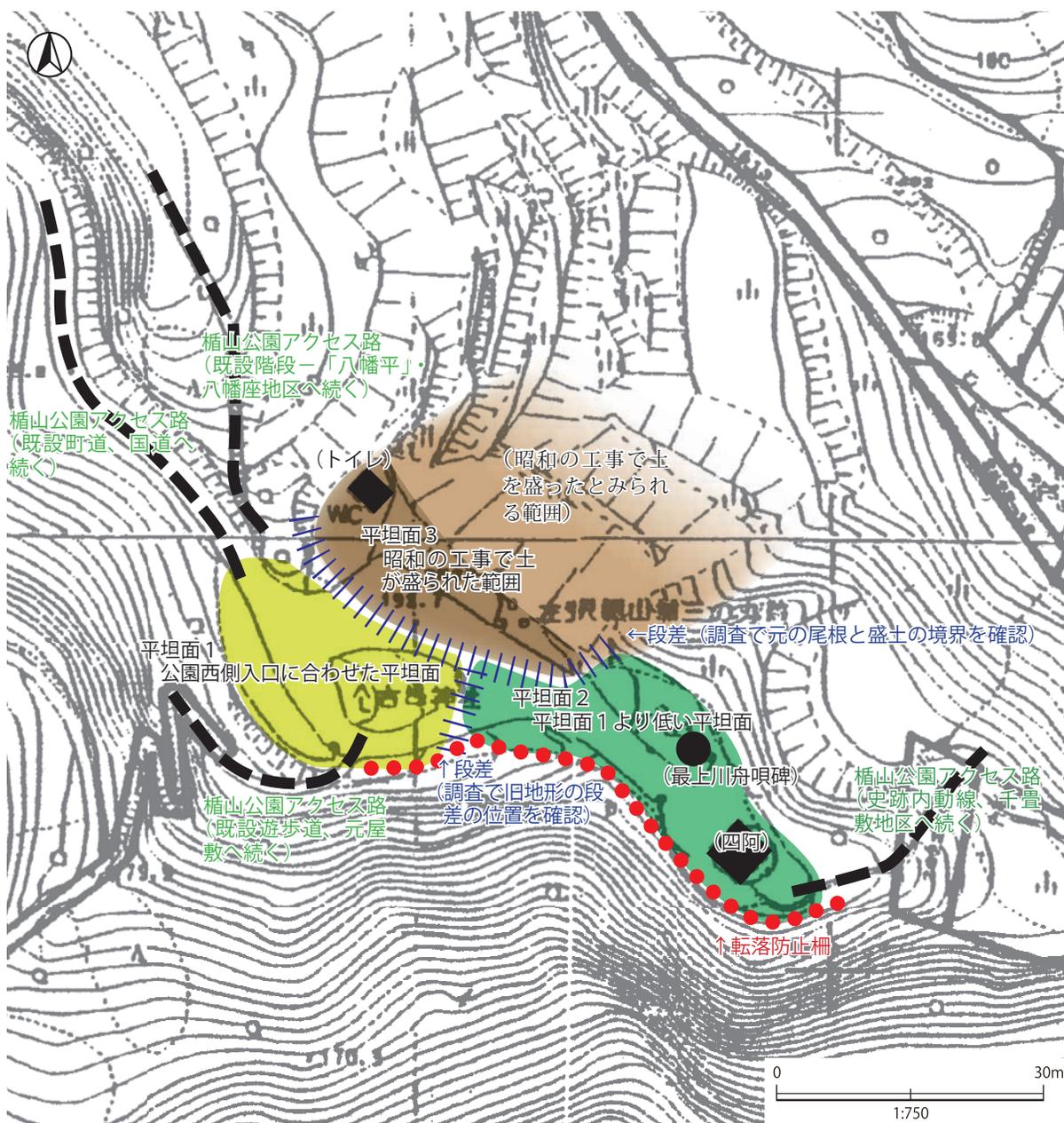


図6-3 便益施設ゾーン（楯山公園）の考え方



楯山公園 全景（北から南に向かって低くなる）



昭和の工事で土が盛られたとみられる場所（公園北東部）



公園の広がり と 南・西側の崖

(4) 動線

第Ⅰ期整備において史跡内を周回できるような動線を設定し、散策路を設置する。動線は老若男女、様々な来訪者を想定し、散策路の状況をふまえて複数のコースを設定する。曲輪群をつなぐ動線は、城本来の道を生かした動線と、来訪者が史跡内を周回するのに必要な動線について、それぞれ適切な位置や形状を選択する。

- ・ 史跡へのアクセス

史跡へのアクセスは、山形県立朝日少年自然の家の北側を通るルートと、元屋敷から既存の遊歩道（町道）を通るルートを設定する。なお、将来的には登城路や居館地区を解明し、それを活かしたアクセスルートの設定を想定する。

- ・ 城本来の道を生かした動線

発掘調査によって虎口など曲輪出入口の施設を検証し、城本来の道を生かす動線である（6-4図赤線）。現在みられる坂虎口状の地形や屈曲した道の地形、帯曲輪などを利用する。斜面部分は発掘調査によって検出した虎口の構造をもとに、階段やスロープを設置する（同図赤枠部分）。現在、城本来の道が明確でない部分については、整備までに発掘調査を実施して当該部分の構造を明らかにしてから道を設定する。

- ・ 来訪者が史跡内を周回するのに必要な動線

城跡内を散策することを目的とした動線である（同図青線）。城本来の道を生かした動線をつないで、来訪者が史跡内を歩くことでその地形が変化することを防ぎつつ、来訪者の安全を確保する。この動線も、縄張から考えられる虎口や横矢がけ、帯曲輪など、城としての構造を意識して設定する。発掘調査を行わない場所の斜面部分は、曲輪や切岸を削らないように簡易的な階段等に対応する（同図青枠部分）。

- ・ 緊急時に使用する通路

救急車等緊急車両の進入やけが人の搬送などで使用する動線である。現在の地形や道を生かしつつ、地表面の補強や排水措置を実施することで対応する（同図灰色部分）。併せて緊急時に限って解放できる動線も設定する（同図中灰色破線）。

- ・ フリースペース

既に調査が行われた箇所を中心に、曲輪の平坦地の一部はフリースペースとして自由に散策できるような整備を進める（同図濃い黄色部分）。

- ・ コースの設定

所要時間やコース内の比高差などを配慮して、山城内を周回するにあたって複数のコースを設定し、来訪者に提案する（図6-5）。

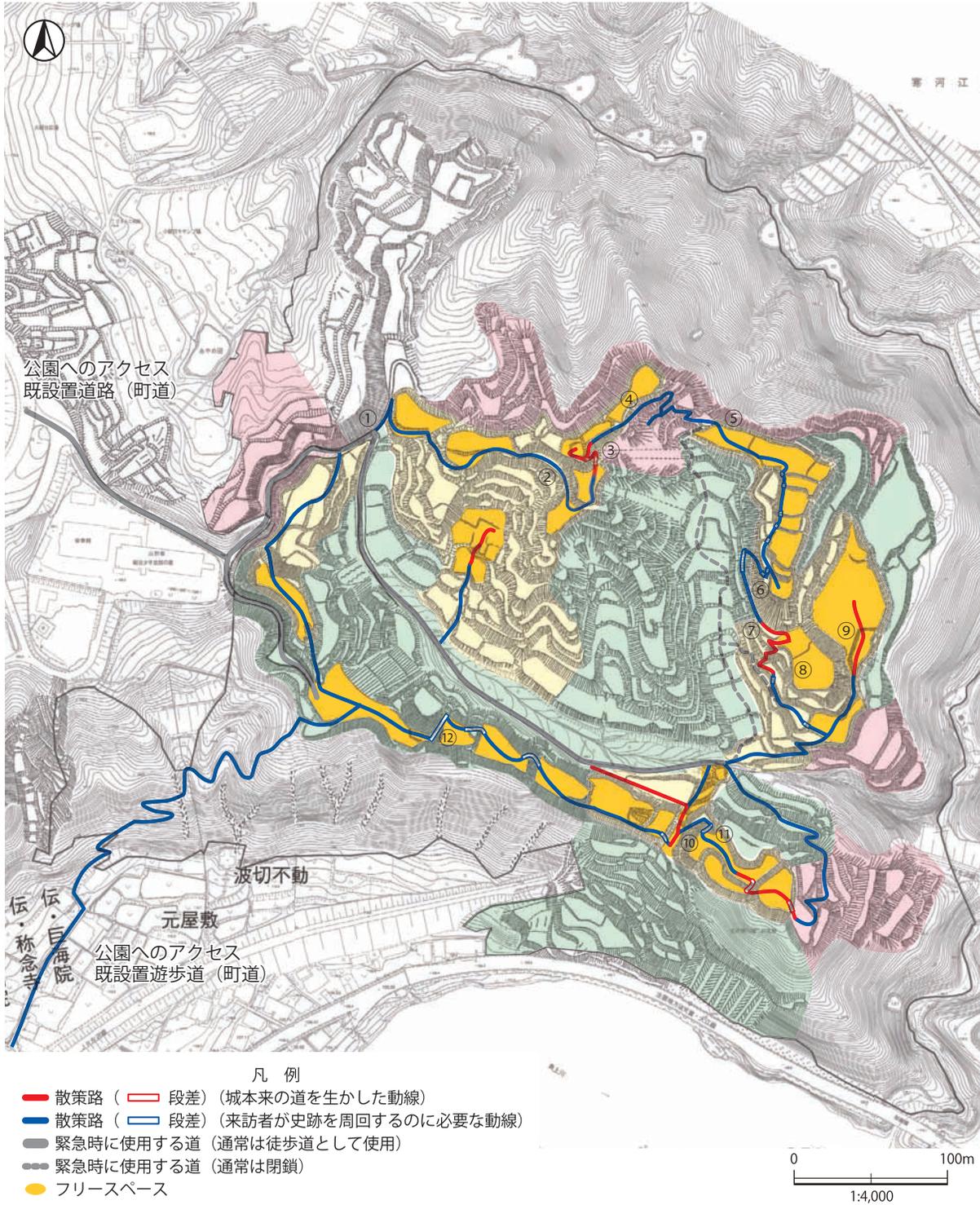


図6-4 動線計画図

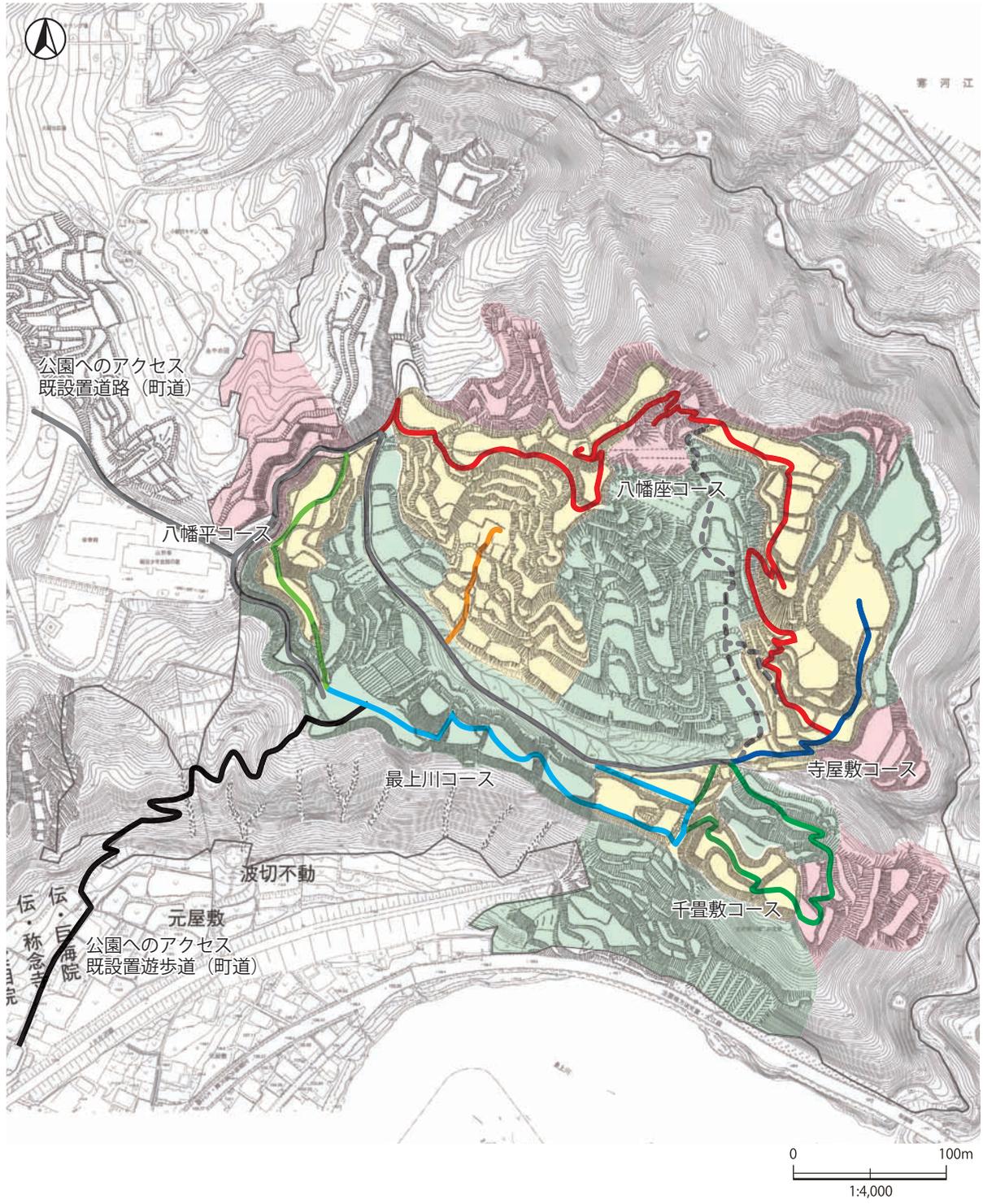


図6-5 散策コースの設定

(5) 階段等の設置

第Ⅰ期整備において史跡内動線としての散策路整備を予定する場所は、現在通っている道をそのまま利用できる場所、階段設置工事等を検討する場所、虎口や城道を調査し生かす場所に分けられる。

現在通っている道をそのまま利用する場所は、平成22年に現地踏査をおこなって、史跡の案内に利用するため刈り払いを行っているルートの基本とする。蛇沢と八幡座地区C6・7間など、一定の幅があり道が安定している場所である。

階段設置工事等を検討する場所は、同様に現在刈り払いをおこなっているルート上であるが、散策者の通行が困難な場所である。「寺屋敷」や「千畳敷」周辺の一部の道など、高低差がある場所が該当する。これらの場所は、安全対策のために現代のものと同様の簡易な階段や手すりの設置を検討する。

虎口や城道を生かす場所は、主要な曲輪の出入り口を中心に、発掘調査で城の地形が確認された場所とする。いずれも城の地形を毀損しないよう配慮し、城の防御構造から道の設置が考えられない場所は、極力動線を通さないようにする。



①蛇沢沿いの一部舗装道から「八幡平」へのルート



②八幡座地区（現在通っている道を利用する場所）



③八幡座地区（城道を生かす場所）



④八幡座地区（フリースペース）

写真に付した①～⑩の番号は図6-4と対応する。C1ほかアルファベットを付した番号の場所は、各曲輪の発掘調査区名称（図3-2）をあらわす（次頁掲載写真も同様）。



⑤寺屋敷地区（現在通っている道を利用する場所）



⑥寺屋敷地区（簡易的な階段等が必要な場所）



⑦寺屋敷地区（城道を生かす場所）



⑧寺屋敷地区（フリースペース）



⑨「寺屋敷」入口（城道を生かす場所）



⑩千畳敷地区（現在通っている道を利用する場所）



⑪千畳敷地区（簡易的な階段等が必要な場所）



⑫楯山公園南東側（簡易的な階段等が必要な場所）

(6) 景観と植生

第Ⅰ期整備では、修景整備ゾーンで城跡の地形が分かるよう植生の制御を図るとともに、要所に設定した視点場から、城跡内及び城跡外への眺望の確保を中心とした景観の整備をおこなう。

① 眺望の確保（6-6図）

八幡座地区では「八幡座」周辺と「八幡座」から西と南へ伸びる尾根周辺、寺屋敷地区では「寺屋敷」とその西側に連なる曲輪群、千畳敷地区では「千畳敷」から西側の堀切と「鉄砲場」周辺を修景整備ゾーンとして地形が分かるような植生の管理をおこなう（図6-6黄色部分）。

八幡座地区と寺屋敷地区では、「八幡座」から西に延びる尾根上と「八幡座」、「寺屋敷」及びその南西上部の曲輪を中心に視点場を設定する。各視点場から城内を望む眺望を確保するため、蛇沢沿いを中心とした植生管理ゾーン（同図薄緑部分）において樹木の整備と植生の制御をおこなう。特に「八幡座」（C1）、「寺屋敷」上部の曲輪（C9）、千畳敷（B1）間で、主要な曲輪がお互い見通せるよう留意する（同図赤線）。

千畳敷地区では「楯山公園」から東西に延びる尾根状に動線に沿う連続した視点場を設定、最上川や元屋敷など城外への眺望を確保するように配慮して植生などの整備を図る。

② 眺望の遮蔽（6-6図）

「八幡座」の北側から北方への眺望や、寺屋敷地区から東方への眺望は、現在、樹木によって遮蔽されている状況である。これらの眺望は、檜木沢沿いの道と権威をあらわすと考えられる「寺屋敷」が、お互いよく見通せる位置関係であることや、北方への見張りがきく地形など、城の立地環境をうかがえるものである。

一方で、高速道路や砂利採り場など、現代の土木技術で構築された構造物が、城跡内において視界に入る場所でもある。そのため一部の樹木を眺望の遮蔽物として利用するなど、現代の構造物が城跡内の景観創出に影響を与えないよう留意する（同図破線矢印）。

③ 植生の整備（6-7図）

修景整備ゾーンと遺構表示ゾーンでは、城跡の地形が見えるように樹木やツル性植物を整理して、広葉樹を中心に限定した樹木と、管理された草本類による環境を整備する。植生管理ゾーンでは見通しを確保できるように、植生を整理し制御する。

具体的には、平坦地における杉の植林の伐採や、落葉広葉樹林（コナラ～カスミザクラ、クヌギ群生）の間伐や部分伐採、クズなどツル性植物を除去して見通しを確保すること、伐採しない樹木については生育環境を健全化するなどの措置が考えられる。あわせて千畳敷地区と八幡平（楯山公園）地区では、南側に広がる落葉広葉樹林の間伐・枝打ちのほか、天然更新による自然林の可能性のある八幡平周辺のアカマツを撫育するなど、現在の林分を活かす方策も検討する。

ヤダケなど城郭特有と言われる植物や、イワナシ、キバナイカリソウ、フデリンドウ、シャガなどは現存する植生を生かした環境創出や活用事業を検討する。

併せて、急崖やオーバーハング部分では法面養生の観点からも代替植生を検討する。

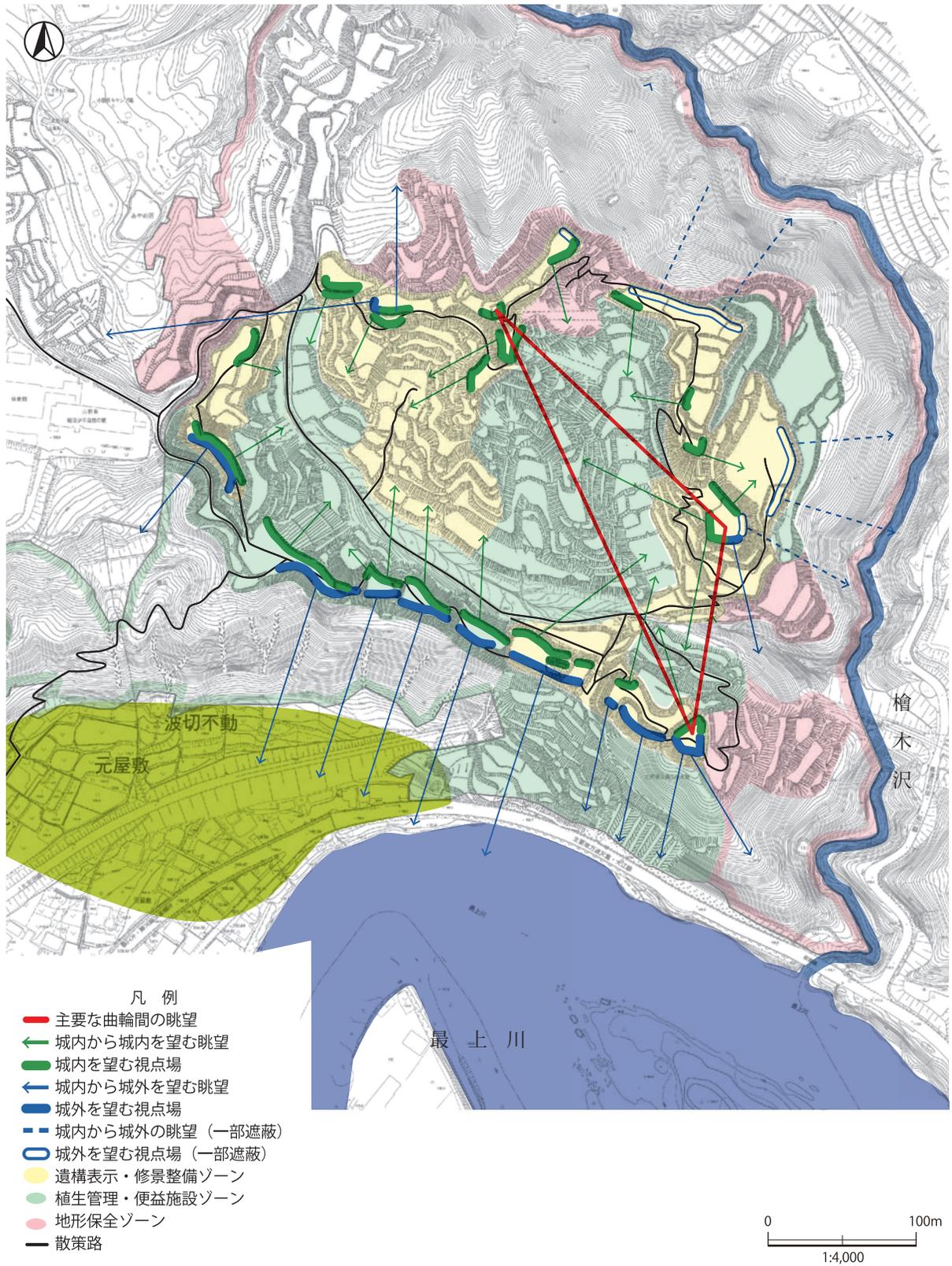


図6-6 景観と視点場・眺望の整備

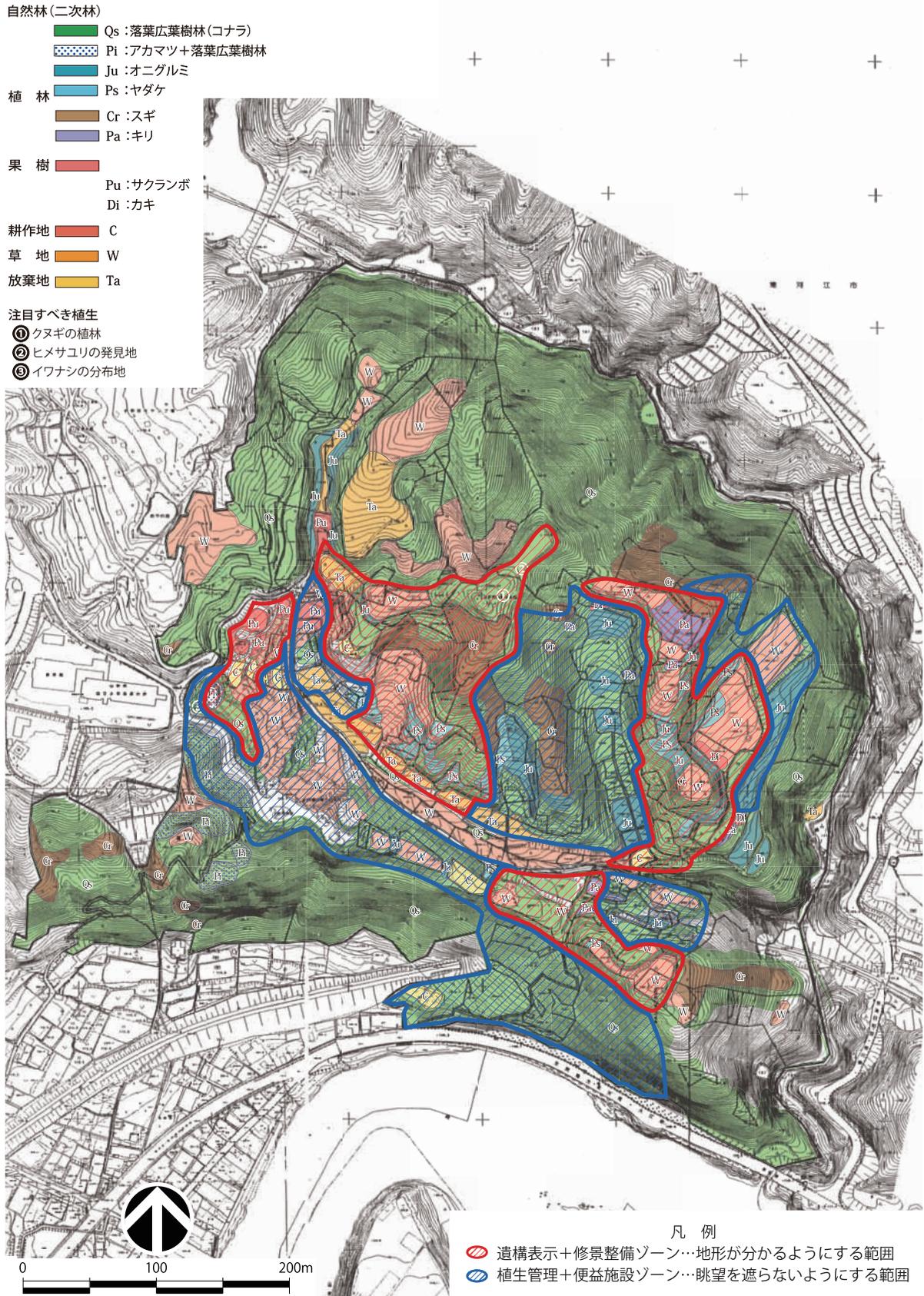


図6-7 現存植生と景観整備



①修景整備ゾーン(寺屋敷地区)



②修景整備ゾーン(寺屋敷地区)



③修正景整備ゾーン(八幡座地区)



④修正景整備ゾーン(千畳敷地区)

写真は樹木が繁茂していない時期のものである。写真に付した①～④の番号は図6-6の番号①～④と対応する。

(7) サインと便益施設

全体の案内板と遺構などの説明板を通して、左沢楯山城跡の特徴を表示する。また、史跡の保護や城跡の防御構造を体感する観点から急斜面を通る道は、サインによりあらかじめ注意喚起を行って、多様な来訪者に対応する。

サインの内容については、文字だけではなくイラストや図、立体的な形状を工夫し、特に遺構や城跡の説明について中世山城が想起される分かりやすい表示を心がける。

また、今後の整備や調査も考慮して、恒久的な説明板と仮説的な案内板を使分け、仮説的な案内板は住民参加による設置を進める。

便益施設は、楯山公園の便益施設ゾーンの設備を利用するほか、必要な場所にベンチなど腰を下ろせる場所を整備する。

① 全体の案内板と城跡の説明

全体の説明板は「楯山公園」に設置する。内容は国史跡指定の表示や左沢楯山城跡全体の説明、史跡内の散策コースの紹介や地図など、総合的な案内の役割を果たすものを考える。

個別の曲輪の説明板は、「八幡座」(C1)、「ゴホンマル」(C4)、「寺屋敷」(C8)、「千畳敷」(B1) など発掘調査を予定している場所を想定する。サインの形状は、模型も含めて立体的な表現も検討する。なかでも、今後継続した発掘が予定される千畳敷地区などについては、ワークショップで仮設案内板を造るなど、説明内容の更新に対応するものを検討する。

② 散策に関わる情報

来訪者を想定しながらコースを案内をする表示を心掛ける。所要時間や高低差、来訪者によっては危険となりえる場所など、散策に必要な情報の掲載をおこなう。あわせて城跡に生える樹木や草花に関する表示や、望みできる景色の説明など、左沢楯山城跡の多彩な魅力を紹介する。

③ 道標

道標は単純な「みちしるべ」と、全体の図を掲載し、城跡全体のなかで現在地を把握できるものの2種類を想定する。単純なみちしるべは道の分岐点や見通しが悪い場所に設置し、城跡全体の中で現在位置を把握できる道標は、堀切や主要な曲輪の周辺等に設置をおこなう。

④ 境界標

史跡指定地の境界となる筆境が屈折する地点のうち、元屋敷の民家や山形県立朝日少年自然の家のキャンプ場と近接する場所、自然の家活動地のコース沿いなど、人が通る場所から優先的に設置を進める。

写真はいずれも群馬県金山城の例である



縄張図が入った道標の例



イラスト入りの説明板の例



地形模型の例

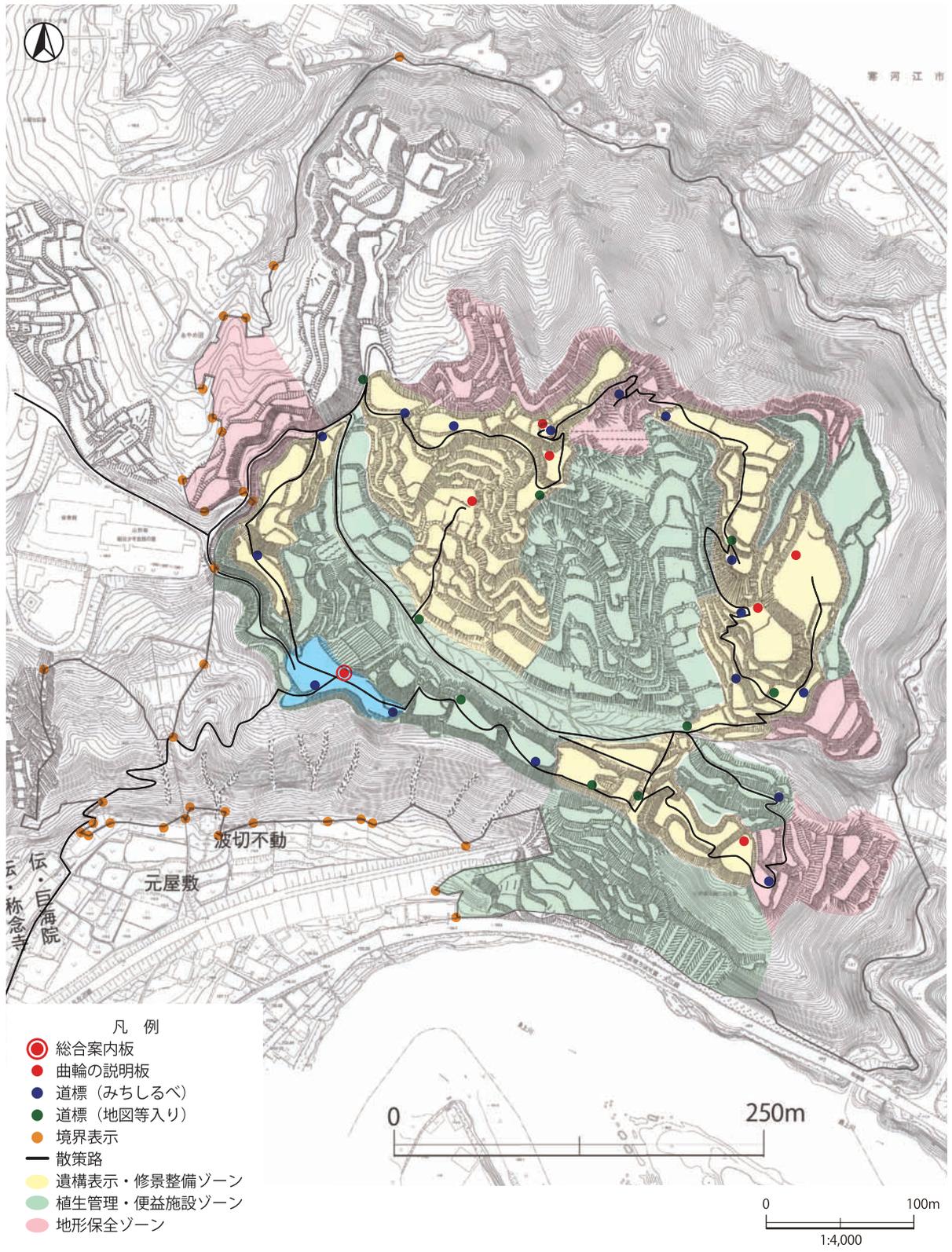


図6-8 サインの設置



トイレ
(積雪時期閉鎖)



最上川舟唄碑とベンチ



四阿

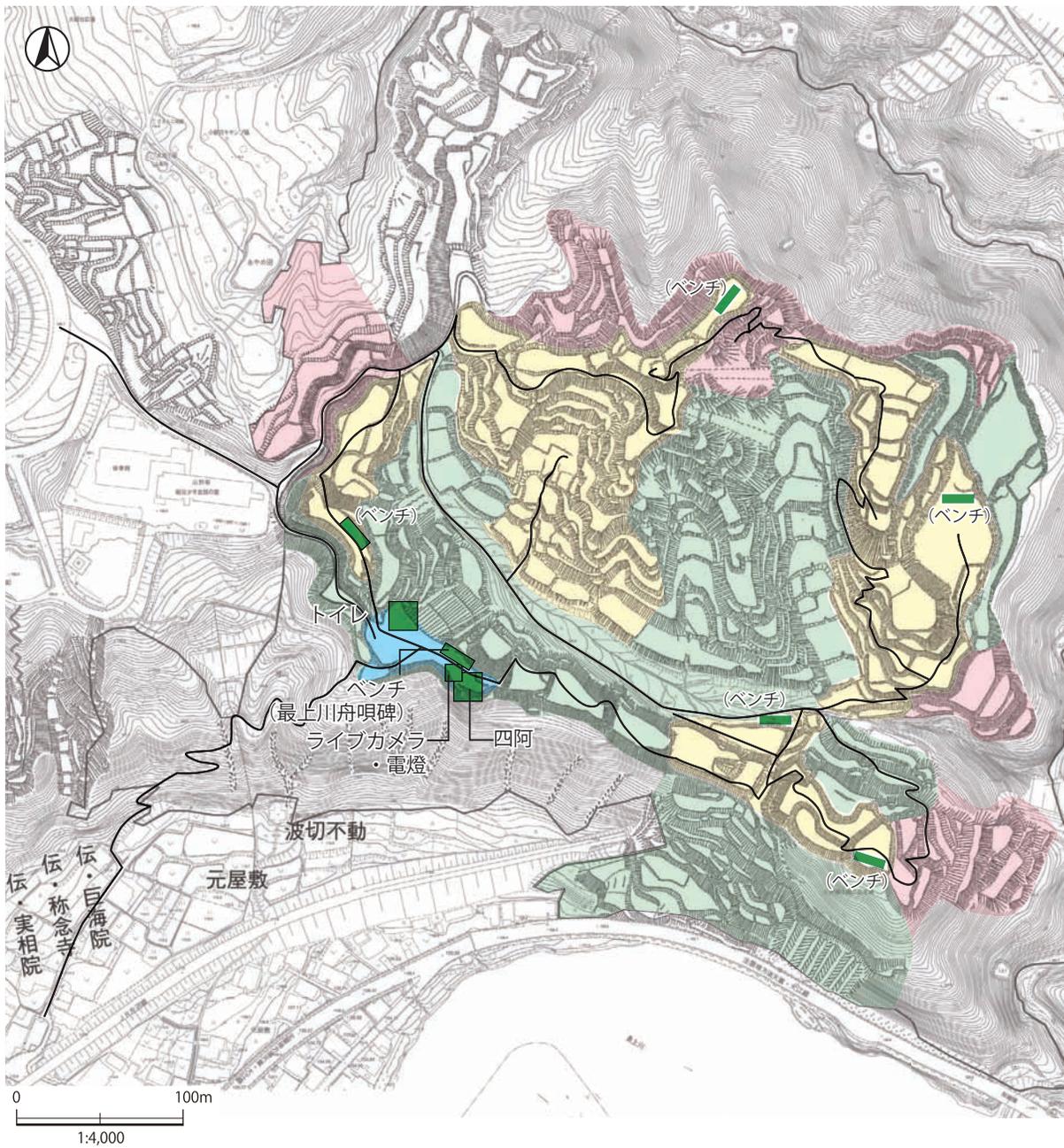


図6-9 便益施設の整備

第7章 事業計画と体制の整備

第1節 事業計画

(1) 全体

第Ⅰ期整備は平成28年度までを予定し、そのための発掘調査は平成26年度までの4カ年を予定する。整備の工事は平成26年度に予定する第Ⅰ期整備のための発掘調査の調査報告書刊行後とする。ただし、総合案内板など最終的な設計後に内容を確定すべきものは、平成29年度の工事を計画する。

また安全面から早期の整備が望まれる「楯山公園」は、第Ⅰ期整備の全体計画と齟齬をきたさないよう配慮しつつ、公園部分の発掘調査後、可能な部分から整備を進める。

第Ⅱ期整備以降は、登城路の解明を進めるとともに「千畳敷」や「寺屋敷」など、主要な曲輪の遺構表示等を通して、要所で城跡をイメージできるような整備を検討する。そのための調査を3～5カ年で計画し、調査後成果を整備・活用して、また次の調査に移るといように、年次を区切って成果をフィードバックしながら計画的な取組みを行う。

また楯山公園以外でも、安全管理や災害復旧などの急を要する課題に対しては、必要に応じた対応とする。

史跡指定地外に存在が推測される居館地区などは、周知の埋蔵文化財包蔵地として適切な対応を図るため、開発行為と調整しつつ存在や位置、範囲の確認を目指す。

住民参加については本構想策定と同時に実施しているワークショップなどの取組みを継続し、整備への参加、第Ⅰ期整備と共に保存会等組織の立ち上げと活用への参加を目指して事業を進める。

表7-1 全体計画

平成 / 年度	史跡指定地内			史跡指定地外		住民の参加
	発掘調査	保存整備		発掘調査	保護措置	
24 25 26 27 28 29 年度 以降	第Ⅰ期整備のための 発掘調査 (23～26年度) 26年度に報告書刊行 「千畳敷」地区の調査 (目的は登城路の解明や 第Ⅱ期整備の表示) 5カ年程度 寺屋敷地区など主要な 部分で優先順位をつけ ながら3～5カ年毎に 区切って調査を計画	第Ⅰ期 ・基本計画 ↓ ・基本設計 第Ⅰ期 ・実施設計 ・施工 第Ⅱ期整備へ 以後、調査成果 を整備に反映	安全管理と 防災 楯山公園 部分への 対応 (防災,安 全管理, 災害復旧 など 必要に応 じ随時対 応する)	(開発対応) 遺跡の存在、 範囲の確認 (元屋敷) (開発対応)	埋蔵文化財と して文化財保 護法に基づい た取扱い (元屋敷・裏 山など) 史跡と一体と なる重要な部 分は保存でき るように調整 を図る。	ワー ク ショ ップ を 通 し た 整 備 へ の 参 加 保 存 会 等 の 立 ち 上 げ 活 用 ・ 運 営 へ の 参 加

(2) 第Ⅰ期整備

表7-2 第Ⅰ期整備の計画

年度	町主体	史跡の保存整備・活用事業					文化的景観 (史跡周辺の景観)	
		発掘調査 町主体	その他調査 町主体	橋山公園部分 町主体	住民参加 町・住民協働	史跡指定地外 埋蔵文化財 町主体		駐車場 町主体
平成24	● 基本計画	蛇沢地区 八幡座地区	測量調査 (地形測量～ 26年度:発掘調査と連携)	発掘調査 (試掘) 測量 基本計画	ワークショップ 仮設案内板 作成、設置 草刈り等管理体験	(開発対応:文化財保護法)	駐車場とアクセスの検討	保存計画の策定 景観計画の見直し 選定申出(左沢)
平成25	● 基本設計	八幡座地区 寺屋敷地区	植生調査 (位置・樹種)	実施設計 施工(東側) 盛土、整地				整備計画の策定
平成26	● 実施設計 (八幡座・寺屋敷地区:植生、八幡座地区:整地工事、全体:境界標)	寺屋敷地区 千畳敷地区 調査報告書	散策路の位置・階段部分の地形測量	施工(西側) 盛土、整地 施工(全体) 転落防止柵、車止め				
平成27	● 実施設計 (八幡座地区:遺構表示、八幡座・寺屋敷地区:散策路、千畳敷地区:植生) ● 施工 八幡座地区・寺屋敷地区 植生整備 八幡座地区 (遺構表示ゾーン) 整地工事 全体 境界標識等設置工事	(千畳敷地区)			保存会等組織の立ち上げ準備	元屋敷地区 居館の位置や範囲の検討と確認		
平成28	● 実施設計 (千畳敷地区:散策路) ● 施工 八幡座地区 散策路工事 遺構表示工事 寺屋敷地区 散策路整備工事 千畳敷地区 植生整備 散策路工事				保存会等組織立ち上げ			史跡との連携へ
平成29	(総合案内板・道標)			総合案内板	史跡の活用			

第Ⅰ期整備は平成29年度までの取組みとする。発掘調査と虎口を生かす部分の地形測量は、発掘予定年度に実施。遺構表示ゾーンと修景整備ゾーンを中心に樹木の伐採などの植生整備を行うために、平成25年度から樹種と位置の調査を予定する。併せて散策路の工事予定箇所を含む動線の位置を測量によって明確にする。

これらを受けて平成26年度は八幡座・寺屋敷両地区で伐採対象樹木を確定するなどの植生整備と遺構表示ゾーン（八幡座地区）の整地、平成27年度は八幡座・寺屋敷地区散策路と遺構表示ゾーンの遺構表示、千畳敷地区の植生整備、平成28年度は千畳敷地区散策路の実施設計と、設計後に平成27年度からの順次施工を予定する。なお、道標や総合案内板、説明板などは平成28年度の実施設計で整備内容が確定した後内容を検証するため、平成29年度工事を予定する。

楯山公園部分の表土流出防止の盛土や安全柵設置は、平成25年度の実施設計と着工を目指す。総合案内板などは全体の整備と足並みをそろえた時期の整備を予定する。

住民参加については、平成24年度から平成26年度にかけて、整備までの仮設案内板設置活動など、整備に参加する体験活動を行いながら、整備完了後に「誰が」「何を」担当して「どのような」活用が行えるか、体制はどのようなものが望ましいかなど、平成28年度に立ち上げを目指す組織を段階的に具体化できるようワークショップを組み立てて取組みを進める。

史跡指定地外では、周知の埋蔵文化財包蔵地とされている裏山や元屋敷を中心に、文化財保護法に則り開発対応を行うことで左沢楯山城跡の保護を図る。また、元屋敷に所在が推定される居館地区の所在と範囲が不明で、法対応上も、史跡の課題である登城路解明の面からもこれらの解明が必要であるため、平成27年度からの取組みを予定する。

（3）発掘調査

平成23年度から26年度の4カ年で計画する第Ⅰ期の発掘調査では、「八幡座」「千畳敷」「寺屋敷」で散策路設定のためそれぞれの虎口を探すとともに、史跡内の動線を設計するため必要な場所の試掘を予定する。「八幡座」遺構の表示を目標に平成24年度も調査を継続して曲輪全体の確認を進める。

「八幡座」は平成23年度の調査で2間×2間の建物跡が検出されており、城の最頂点を占める位置で城の中核を成す一帯に位置すること、面積が120㎡程度と狭いことから全面的な発掘調査により、平成24年度までの調査で全面的な解明を目指す。

「寺屋敷」「千畳敷」は曲輪の出入り口を探すため、地形から虎口と推定される場所の調査を行う。「寺屋敷」は以前の調査によるC8調査区の布堀上遺構の延長上と、東側で一段低い曲輪周辺の調査を予定する。「千畳敷」は曲輪南東側の出入り口や「千畳敷」に登るためのルートに不明な点が多い。一方で千畳敷周辺の散策では急斜面を上り下りするため、階段等の設置が必要であることから、「千畳敷」の曲輪を中心に、ルートを検討するための調査区を設定する。

蛇沢や八幡座の谷部分などは、これまで調査が行われていない範囲である。遺構の有無が分からないため、試掘を行い動線の整備によって遺構を壊さないようにする。また当該地に動線を通す必要があるかを検討する。

以上が第Ⅰ期整備に係る調査であるが、平成27年度以降は千畳敷地区の調査による最上川との関係や登城路解明と、元屋敷における居館の存在範囲確認を目標とした調査を予定する。

千畳敷地区は整備に係る虎口解明のための調査を平成26年度に予定しており、27年度からは調査範囲を拡張する形での調査を予定する。元屋敷は踏査や土地利用の検証なども含めた調査への着手を予定する。

表7-3 発掘調査計画

年度	八幡座地区	寺屋敷地区	千畳敷地区	蛇沢地区	八幡平（楯山公園）地区	元屋敷
23	「八幡座」(C1)			沢に直交する調査区3箇所		
24	「八幡座」曲輪全面のプラン確認 （「八幡座」(C1)） 遺構の有無確認 （谷部分）			堀底道周辺の道、 出入口施設の 確認 （堀切北側）	原地形と公園整備時の埋立等 改変範囲確認 （公園内の試掘）	
25	遺構の有無確認 （前年度の継続、 遺構がある場合）	「寺屋敷」虎口の 確認 （「寺屋敷」(C8) と南東下部）				(開発対応)
26		「寺屋敷」虎口の 確認 （前年度の継続）	「千畳敷」虎口の 確認 （「千畳敷」と下 部の曲輪群）			
第 1 期 整 備 の た め の 報 告 書 刊 行						
27 以降	(整備時の調査)	(整備時の調査)	千畳敷地区継続 調査 ・千畳敷周辺 ・南斜面下部 登 城路推定地など			(開発対応) 所在・範 囲確認 踏査、試 掘など

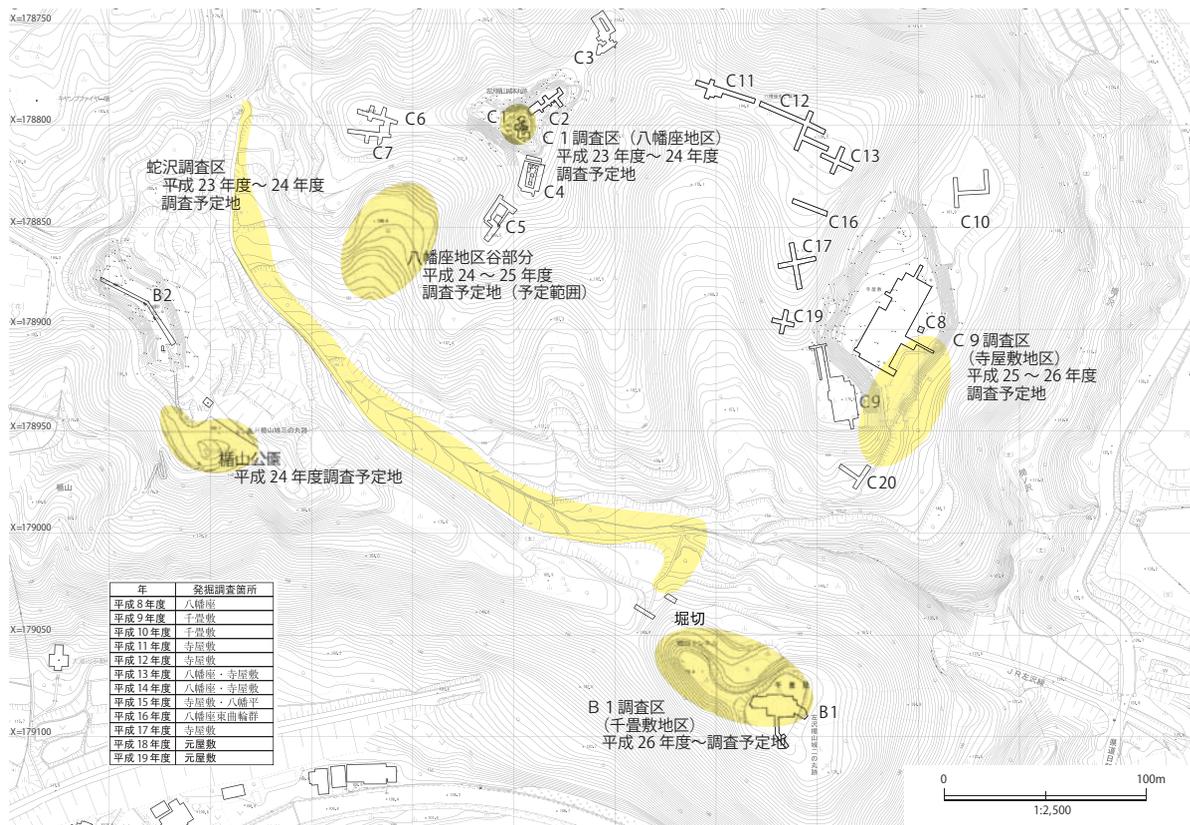


図7-1 発掘調査予定箇所

第2節 体制の整備

史跡指定地内の大部分は公有化が図られているが、一方で「山形県立朝日少年自然の家」による利用がなされ、町においてもナラ枯れの対策や観光地としての活用がなされている。

教育委員会が主体となる史跡の管理、整備・活用は、これらの取組みと調整を図り、連携する必要がある。

史跡を主管する教育委員会以外が主体となる事業で、ナラ枯れ対策など町全体の計画の中で進められている事業は、従来の位置付けのまま進めることとし、教育委員会では史跡に対する影響の確認と価値の保全面から調整を図る。

ソフト的な自然の家による活用や観光ボランティアガイドによる案内などは、教育委員会から調査成果の情報や、史跡を案内・活用するツールを提示し、各団体の活動と史跡両方が利益を得るような連携を検討する。

住民の参加については、平成26年度までのワークショップ内で、仮設案内板の設置や草刈りなど管理の体験を行って、それをもとに平成27年度に史跡との関わり方を検討し、平成28年度に史跡の管理や活用事業に住民が参画するような体制、組織づくりを進める。

左沢楯山城跡を重要な構成要素とする「左沢と最上川の流通往来の景観」は、平成24年度に重要文化的景観の選定申出を予定している。また、史跡の周辺には大江氏関連の歴史や中世城館跡、文化財や遺跡など、史跡の活用における資源が存在する。

ワークショップ等の取組みや、史跡も含めた文化的景観の取組みでは、これらの資源のネットワーク化や、他の資源と連携できるような体制を検討する。

資 料 1

大江町史跡公園の設置及び管理に関する条例

(平成22年9月17日条例第21号)

(目的)

第1条 この条例は、郷土の貴重な史跡を歴史遺産として保存と活用を図り、文化的生活の向上に寄与するため、大江町史跡公園（以下「史跡公園」という。）の設置及び管理に関し必要な事項を定めることを目的とする。

(名称及び位置)

第2条 史跡公園の名称及び位置は、次のとおりとする。

名称 左沢楯山城史跡公園

位置 大江町大字左沢字元屋敷 48 番地外

同 字裏山 1401 番地の 1

同 字楯山 1436 番地外

(管理)

第3条 史跡公園は、大江町教育委員会（以下「教育委員会」という。）が管理する。

(行為の制限)

第4条 史跡公園において次に掲げる行為をしようとするものは、教育委員会の許可を受けなければならない。

(1) 物品の販売、募金、その他これらに類する行為をすること。

(2) 張り紙若しくは張り札をし、又は広告を表示すること。

(3) 史跡公園の全部又は一部を独占して使用するとき。

(4) その他制限をすることが必要と認められる行為をすること。

2 前項の許可を受けたものが、許可を受けた事項を変更しようとするときは、教育委員会の許可を受けなければならない。

3 第1項の許可を受けたものは、許可された権利を他人に譲渡若しくは転貸してはならない。

4 教育委員会は、第1項の許可に史跡公園の管理上必要な範囲内で条件を付することができる。

(行為の禁止)

第5条 史跡公園において次に掲げる行為をしてはならない。

(1) 公の秩序を乱し、又は善良な風俗を害すること。

(2) 施設を損傷し、又は汚損すること。

(3) 竹木を伐採し、又は土石若しくは植物を採取すること。

(4) 土地の形質を変更すること。

(5) その他禁止することが必要と認められる行為をすること。

(利用の禁止又は制限)

第6条 教育委員会は、史跡公園の損壊その他の理由により、その利用が危険であると認められる場合においては、史跡公園を保全し、又はその利用者の危険を防止するため、区域を定めて史跡公園の利用を禁止し、又は制限することができる。

(許可の取消し等)

第7条 教育委員会は、次の各号のいずれかに該当すると認めるときは、第4条の規定による許可を取り消し、その効力を停止し、若しくはその条件を変更し、又は行為の中止、原状回復若しくは史跡公園からの退去を命ずることができる。

- (1) この条例の規定に違反したとき。
- (2) 許可に付した条件に違反したとき。
- (3) 偽りその他不正な手段により許可を受けたとき。
- (4) 史跡公園の管理上支障があると認めるとき。
- (5) 前各号に掲げるもののほか、公益上やむを得ない必要が生じたとき。

(損害賠償)

第8条 史跡公園を利用するものは、その責めに帰すべき理由により公園の施設を滅失し、又は損傷したときは、これを原状に回復し、又はこれに要する費用を負担しなければならない。

(委任)

第9条 この条例の施行に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附 則

この条例は、平成22年10月1日から施行する。

大江町史跡公園の設置及び管理に関する条例施行規則

(平成22年9月30日教委規則第3号)

(目的)

第1条 この規則は、大江町史跡公園（以下「史跡公園」という。）の設置及び管理に関する条例（平成22年条例第21号。以下「条例」という。）の施行に関し必要な事項を定めることを目的とする。

(行為の制限)

第2条 条例第4条第1項第1号に規定するその他これらに類する行為及び、第4号に規定するその他制限をすることが必要と認められる行為は、次に掲げるものとする。

- (1) 業として写真又は映画を撮影すること。
- (2) 興行を行うこと。
- (3) 競技会、展示会、集会その他これらに類する催しを行うこと。
- (4) 打ち上げ花火など火災を発生させるおそれがある行為をすること。
- (5) その他教育委員会が史跡公園の管理上支障があると認める行為をすること。

(行為の許可申請)

第3条 条例第4条第1項各号に掲げる行為の許可を受けようとするもの(以下「申請者」という。)は、行為の許可申請書(別記様式第1号。以下「申請書」という。)をあらかじめ大江町教育委員会(以下「教育委員会」という。)に提出しなければならない。

2 条例第4条第2項による行為の変更許可を受けようとするものは、行為の許可(変更)申請書(別記様式第1号。以下「変更申請書」という。)をあらかじめ教育委員会に提出しなければならない。ただし、教育委員会が行為の変更内容を軽易なものと認めるときは、この限りでない。

(許可等の通知)

第4条 教育委員会は、前条第1項の申請書の提出があった場合はこれを審査し、行為の許可の可否を決定したときは、行為の決定通知書(別記様式第2号。以下「決定通知書」という。)により、申請者に通知する。

2 教育委員会は、前条第2項の変更申請書の提出があった場合はこれを審査し、行為の変更許可の可否を決定したときは、変更行為の決定通知書(別記様式第2号。以下「変更決定通知書」という。)により、申請者に通知する。

(行為の取止め)

第5条 前条により許可を受けたものが許可を受けた行為を取止めしよとするとときは、行為取止め届出書(別記様式第3号)を教育委員会に提出しなければならない。

(行為の禁止)

第6条 条例第5条第1項第5号に規定するその他禁止をすることが必要と認められる行為は、次に掲げるものとする。

- (1) 鳥獣類を捕獲、又は殺傷すること。
- (2) ごみ、その他汚物を捨てること。
- (3) 地面でじかに火気を使用すること。
- (4) その他教育委員会が史跡公園の管理上支障があると認める行為をすること。

(利用の禁止又は制限の掲示)

第7条 教育委員会は、条例第6条の規定により史跡公園の利用を禁止し、又は制限しようとするときは、利用を禁止又は制限する区域及び事由その他必要と認める事項を史跡公園の見やすい場所に掲示する。

(許可の取消し等)

第8条 教育委員会は、条例第7条の規定に基づき許可を取り消し、その効力を停止し、若しくはその条件を変更し、又は行為の中止、原状回復若しくは史跡公園からの撤去を命ずるときは、許可取消等命令書(別記様式第4号)により許可を受けたものに通知する。

(損害賠償)

第9条 条例第8条に規定する費用は、教育委員会が決定する。

(委任)

第10条 この規則の施行に関し必要な事項は、教育委員会が別に定める。

附 則

この規則は平成22年10月1日から施行する。

資料 2

史跡左沢楯山城跡

植 生 目 録

史跡左沢楯山城跡整備検討委員会

委員 吉野 智雄

凡 例

- 1 本目録は、平成 21 年 8 月～平成 22 年 5 月に実施した現地調査の結果、区域に自生する種子植物（シダ植物を含む）を確認した種を記した。
- 2 分類方式・学名・和名は『新版山形県の植物誌』結城嘉美著 1992 を参考にした。
- 3 調査区域
A：八幡座・蛇沢 B：北外郭 C：八幡平・楯山公園 D：鉄砲場・千畳敷
- 4 調査日・調査者
平成 21 年 8 月 18 日（吉野 智雄、小笠原俊彦、金山 耕三、菊地 泰子）
平成 21 年 8 月 20 日（吉野 智雄、金山 耕三、菊地 泰子）
平成 22 年 5 月 17 日（吉野 智雄、京谷 潤、菊地 泰子）
平成 22 年 5 月 18 日（吉野 智雄、櫻井 洋志、菊地 泰子）
- 5 植生目録について（標記）
平成 21 年の調査で確認された種には○印を、
平成 22 年の調査で確認された種には●印を付した。
また貴重種には◎を付した。また無印は分布を見逃したと思われる種を記した。植栽樹木には、太字を付した。

PTERIDOPHYTA シダ植物

A	B	C	D
			イワヒバ科 Selaginellaceae
			クラマゴケ <i>Selaginella remotifolia</i> Spring
			ゼンマイ科 Osmundaceae
○	○	○	ゼンマイ <i>Osmunda japonica</i> Thunb.
		●	クジャクシダ <i>Adiantum pedatum</i> L.
○		○	ワラビ <i>Pteridium aquilinum</i> (L.)Kuhn.var. <i>latiusculum</i> (Desv.)Und.ex Heller
			オシダ科 Aspidiaceae
○	○		ホソバナライシ <i>Arachniodes borealis</i> Serizawa
○			リョウメンシダ <i>A.standishii</i> (Moore)Ohwi.
●			ヤマヤブソテツ <i>Cyrtomium fortunei</i> J.Sm.var. <i>clivicola</i> (Makino)Tagawa.
○			シケシダ <i>Deparia japonica</i> (Tuhnb.)M.Kato
○			イヌガンソク <i>Matteuccia orientalis</i> (Hook.)Trev.
○		○	サカゲイノデ <i>Polystichum retroso-paleaceum</i> (Kodama)Tagawa
		●	ジュウモンジシダ <i>P.tripteron</i> (Kunze)Presl
			シシガシラ科 Blechnaceae
○		○	シシガシラ <i>Struthiopteris niponica</i> (Kunze)Nakai
			チャセンシダ科 Aspleniaceae
●			コタニワタリ <i>Asplenium scolopendrium</i> L..

PERMATOPHYTA 種子植物
GYMNOSPERMAE 裸子植物

A	B	C	D
			マツ科 Pinaceae
		○	カラマツ <i>Larix leptolepis</i> Gordon.
		○	アカマツ <i>Pinus densiflora</i> Sieb. Et Zucc.
			スギ科 Taxodiaceae
○	○	○	スギ <i>Cryptomeria japonica</i> (L..f.)D.Don
			ヒノキ科 Cupressaceae
○			ヒノキ <i>Chamaecyparis obtusa</i> Sieb.et Zucc.
			イヌガヤ科 Cephalotaxaceae
○			ハイイヌガヤ <i>Cephalotaxus harringtonia</i> (Knight)K.Koch var. <i>nana</i> (Nakai)Rehder

ANGIOSPERMAE 被子植物
Dicotyledoneae 双子葉植物
離弁花類 Choripetalae

A	B	C	D
			クルミ科 Juglandaceae
○	○	○	オニグルミ <i>Juglans mandshurica</i> Maxim.Subsp. <i>Sieboldiana</i> (Maxim.)Kitam.
			ヤナギ科 Salicaceae
		●	ヤマナラシ <i>Populus sieboldii</i> Miq.
●			ヤマネコヤナギ <i>Salix bakko</i> Kimura
○		○	キツネヤナギ <i>S.vulpina</i> Anders.
			カバノキ科 Betulaceae
			サワシバ <i>Carpinus cordata</i> Blume
●		○	アカシデ <i>C.laxiflora</i> (Seib.Et Zucc)Blume
●		○	ツノハシバミ <i>Corylus sieboldiana</i> Blume
			ブナ科 Fagaceae
○	○	○	クリ <i>Castanea crenata</i> Sieb.et Zucc.
○		○	クヌギ <i>Quercus actissima</i> Carr.
●			ミズナラ <i>Q.crispula</i> Blume
○	○	○	コナラ <i>Q.serrata</i> Thunb.Ex Murray
			ニレ科 Ulmaceae
○	○	○	エゾエノキ <i>Cltis jessoensis</i> Koidz.
		○	ケヤキ <i>Zelkova serrata</i> (Thunb.)Makino
			クワ科 Moraceae
○		○	カナムグラ <i>Humulus japonicus</i> Sieb.Et Zucc.
○			カラハナソウ <i>H.lupulus</i> L. var. <i>cordifolius</i> (Miq.)Maxim.
○		○	ヤマゲワ <i>Morus australis</i> Poiret
			イラクサ科 Urticaceae
○	○	○	アカソ <i>Boehmeria Tricuspis</i> (Hance)Makino
●			ウワバミソウ <i>Elatostema umbellatum</i> Blume Var. <i>majus</i> Maxim.
			ミヤマイラクサ <i>Laportea macrostachya</i> (Maxim.)Ohwi
			カテンソウ <i>Nanocnide jaonica</i> Blume
			ビャクダン科 Santalaceae
●			ツクバネ <i>Buckleya lanceolata</i> (Sieb.Et Zucc.)Miq.
			カナビキソウ <i>Theaium chinense</i> Turca.
			タデ科 Polygonaceae
○	○	○	ミズヒキ <i>Antenoron filiforme</i> (Thunb.)Roberty et Vautier
		○	オオツルイタドリ <i>Fallopia dentato-alata</i> (Fr.Schm.)Holub
			ハナダテ <i>Persicaria yokusaiana</i> (Makino)Nakai
○			ママコノシリヌグイ <i>P.senticosa</i> (Meijsn.)H.Gross
○	○	○	ミゾソバ <i>P.thunbergii</i> (Seib.et Zucc.)H.Gross
○			オオミゾソバ <i>P.var.hastatotrioloba</i> Miyabe
○		●	ケイタドリ <i>Reynoutria japonica</i> Houtt var. <i>uzenensis</i> Honda
○	○	○	オオイタドリ <i>R.sachalinensis</i> (Fr.Schm.)Nakai
●		●	スイバ <i>Rumex acetosa</i> L.
			ナデシコ科 Caryophyllaceae
●		●	ミミナグサ <i>Cerastium holosteoides</i> Fries var. <i>hallaisanense</i> (Nakai)Mizusima
●			ウシハコベ <i>Stellaria aquatica</i> (L.)Scop.
●		●	ハコベ <i>S.media</i> (L.)Villars

A	B	C	D
○			ヒコ科 Amaranthaceae
○		○	○ ヒナタイノコズチ <i>Achyranthes bidentata</i> Blume var. <i>tomentosa</i> (Honda) Hara
○	○	○	モクレン科 Magnoliaceae
●	○	●	● ホオノキ <i>Magnolia obovata</i> Thunb.
			● キタコブシ <i>M. praecocissima</i> Koidz. var. <i>borealis</i> (Sarg.) Koidz.
			● タムシバ <i>M. salicifolia</i> (Sieb. et Zucc.) Maxim.
			クスノキ科 Lauraceae
○	○	●	● オオバクロモジ <i>Lindera umbellata</i> Thunb. var. <i>membranacea</i> (Maxim.) Momiyama ex Hara et Mizusima
			● アブラチャン <i>Parabenzoin praecox</i> (Sieb. et Zucc.) Nakai
●			キンボウゲ科 Ranunculaceae
			● フクジュソウ <i>Adonis amurensis</i> Redel et Radd.
			● キクザキイチリンソウ <i>Anemone pseudo-altaica</i> Hara
●		○	○ ボタンヅル <i>Clematis apiifolia</i> DC.
●		●	● アキカラマツ <i>Thalictrum minus</i> L. var. <i>Hypoleucum</i> (Sieb. et Zucc.) Miq.
●			メギ科 berberidaceae
●		●	● キバナイカリソウ <i>Epimedium creameum</i> Nakai
●			アケビ科 Lardizabalaceae
○	○	●	● ゴヨウアケビ <i>Akebia × pentaphylla</i> Makino
		●	● ミツバアケビ <i>A. trifoliata</i> (Thunb.) Koidz.
			ドクダミ科 Saururaceae
		●	● ドクダミ <i>Houttuynia cordata</i> Thunb.
			センリョウ科 Chloranthaceae
			● ヒトリシズカ <i>Chloranthus japonica</i> Sieb
			● フタリシズカ <i>C. serratus</i> (Thunb.) Roem. et Schult.
●			ウマノスズクサ科 Aristolochiaceae
		●	● ウスバサイシン <i>Asiasarum sieboldii</i> (Miq.) F. Maekawa.
			マタタビ科 Actinidiaceae
			● マタタビ <i>Actinidia poygama</i> (Sieb. et Zucc.) Planch. ex Maxim.
○		●	● オトギリソウ <i>Hypericum erectum</i> Thunb.
●			ケシ科 Papaveraceae
●		●	● クサノオウ <i>Chelidonium majus</i> L. var. <i>asiaticum</i> (Hara) Ohwi
●		●	● エゾエンゴサク <i>Corydalis ambigua</i> Cham. et Schlecht
●		●	● ムラサキケマン <i>C.</i> (Thunb.) Pers.
●			タケニグサ <i>Macleaya cordata</i> (Willd.) R. Br.
●			アブラナ科 Cruciferae
●		●	● ナズナ <i>Capsella bursa-pastoris</i> (L.) Medicus
●		●	● タネツケバナ <i>Cardamine flexuosa</i> With
●		●	● コンロンソウ <i>C. leucantha</i> (Tausch) O. E. Schulz
●			マンサク科 Hamamelidaceae
●		●	● マルバマンサク <i>Hamamelis japonica</i> Sieb. et Zucc. var. <i>obtusata</i> Matsum.
			ベンケイソウ科 Crassulaceae
			● キリンソウ <i>Sedum aizoon</i> L. var. <i>floribundum</i> Nakai
			ユキノシタ科 Saxifragaceae
●		●	● トリアシショウマ <i>Astilbe thunbergii</i> (Sieb. et Zucc.) Miq. var. <i>congesta</i> H. Boiss
		●	● ネコノメソウ <i>Chrysosplenium grayanum</i> Maxim.
○	○	○	● ウツギ <i>Deutzia crenata</i> Sieb. et Zucc.
			● エゾアジサイ <i>Hydrangea macrophylla</i> (Thunb. ex Murray) Ser. subsp. <i>serrata</i> (Thunb.) Makino var. <i>megacarpa</i> Ohwi
●			● ウリウツギ <i>H. paniculata</i> Sieb.
			● イワガラミ <i>Schizophragme hydrangeoides</i> Sieb. et Zucc.
			バラ科 Rosaceae
○	○	○	○ キンミズヒキ <i>Agrimonia pilosa</i> Ledeb. var. <i>japonica</i> (Miq.) Nakai.
○		●	● ヤマブキシヨウマ <i>Aruncus dioicus</i> (Walt.) Fern. var. <i>tenuifolius</i> (Nakai) Hara
●			● ダイコンソウ <i>Geum japonicum</i> Thunb.
○			● ヤマブキ <i>Kerria japonica</i> (L.) DC
●		●	● ミズ <i>Malus toringo</i> (Sieb.) Sieb. ex Vriese.
○			● ケカマツカ <i>Pourthiaea villosa</i> (Thunb.) Decne var. <i>zollingeri</i> (Decne) Nakai
○	○	○	○ オクチョウジザクラ <i>Prunus apetala</i> (Sieb. et Zucc.) Franch. et Sav. var. <i>pilosa</i> (Koidz.) Wilson
○	○	○	○ イヌザクラ <i>P. buergeriana</i> Miq.
○	○	●	○ ウワミズザクラ <i>P. grayana</i> Maxim.
●		○	○ オオヤマザクラ <i>P. sargentii</i> Rehd.
○		○	○ カスミザクラ <i>P. verecunda</i> (Koidz.) Koehne
○	○	○	○ ソメイヨシノ <i>P. yedoensis</i> Matsum.

A	B	C	D
	○		○ ノイバラ <i>Rosa multiflora</i> Thunb.
			● クマイチゴ <i>Rubus crataegifolius</i> Bunge
			● モミジイチゴ <i>R. palmatus</i> Thunb. var. <i>coptophyllus</i> (A. Gray) O. Kuntze
○			○ ナワシロイチゴ <i>R. parvifolius</i> L.
			○ アズキナシ <i>Sorbus alnifolia</i> (Sieb. et Zucc.) C. Koch
			ウラジロノキ <i>S. japonica</i> (Decne.) Hedl.
			コゴメウツギ <i>Stephanandra incisa</i> (Thunb.) Zabel
			マメ科 Leguminosae
		○	○ ネムノキ <i>Albizia julibrissin</i> Durazz.
○			ヤブマメ <i>Amphicarpaeabracteata</i> (L.) Fern. subsp. <i>edgeworthii</i> (Benth.) Ohashi var. <i>japonica</i> (Oliv.) Ohashi
○			ヌスビトハギ <i>D. esmodium podocarpum</i> DC. subsp. <i>oxyphyllum</i> (DC.) Ohashi
		○	● ヤマハギ <i>Lespedeza bicola</i> Turcz.
○			● イヌエンジュ <i>Maackia amurensis</i> Rupr. et Maxim. subsp. <i>buergeri</i> (Maxim.) Kitam.
○		○	○ クズ <i>Pueraria lobata</i> (Willd.) Ohwi
●			● ナンテンハギ <i>Vicia unijuga</i> A. Br.
		○	○ フジ <i>Wisteria floribunda</i> (Willd.) DC.
			ユズリハ科 Daphniphyllaceae
			エゾユズリハ <i>Daphniphyllum macropodum</i> Miq. var. <i>humile</i> (Maxim.) Rosenth
			ミカン科 Rutaceae
○			○ サンショウ <i>Zanthoxylum piperitum</i> (L.) DC.
●			● ヤマアラクササンショウ <i>Z. piperitum</i> (L.) DC. form. <i>brevispinosum</i> Makino
			ニガキ科 <i>Picrasma quassioides</i> (D. Don) Benn.
			ウルシ科 Anacardiaceae
			○ ツタウルシ <i>Rhus ambigua</i> Lavall. ex Dipp.
○			○ ヌルデ <i>R. javanica</i> L.
○		○	○ ヤマウルシ <i>R. trichocarpa</i> Miq.
○			● ウルシ <i>R. verniflua</i> Stokes
			カエデ科 Aceraceae
			○ ミツデカエデ <i>Acer cissifolium</i> (Sieb. et Zucc.) K. Koch
○			○ カラコギカエデ <i>A. ginnala</i> Maxim.
			● ハウチワカエデ <i>A. japonicum</i> Thunb.
○		○	○ ヤマモミジ <i>A. palmatum</i> Thunb. subsp. <i>matsumurae</i> Koidez.
○			● ウリハダカエデ <i>A. rufinerve</i> Sieb. et Zucc.
			トチノキ科 Hippocastanaceae
			○ トチノキ <i>Aesculus turbinata</i> Blume
			アワブキ科 Sabiaceae
			○ アワブキ <i>Meliosma myriantha</i> Sieb. et Zucc.
			モチノキ科 Aquifoliaceae
		○	○ ハイイヌツゲ <i>Ilex crenata</i> Thunb. var. <i>paludosa</i> (Nakai) Hara
			○ アオハダ <i>I. macrospora</i> Miq.
			ニシキギ科 Celastraceae
●	○		○ ツルウメモドキ <i>Celastrus orbiculatus</i> Thunb.
	○		○ コマユミ <i>Euonymus alatus</i> (Thunb.) Sieb. form. <i>ciliato-dentatus</i> (Franch. et Sav.) Hiyama
			● ツルマサキ <i>E. fortunei</i> (Turcz.) Hand. - Mazz. var. <i>radicans</i> (Seib.) Rehd.
			● ツリバナ <i>E. oxyphyllum</i> Miq.
			ミツバウツギ科 Staphyleaceae
			○ ミツバウツギ <i>Staphylea bumalda</i> (Thunb.) DC.
			クロウメモドキ科 Rhamnaceae
○			● クマヤナギ <i>Berchemia racemosa</i> Sieb. et Zucc.
○			○ ケンボナシ <i>Hovenia dulcis</i> Thunb.
○	○		● クロウメモドキ <i>Rhamnus japonica</i> Maxim. var. <i>decepiens</i> Maxim.
			ブドウ科 Vitaceae
			○ ヤブガラシ <i>Cayratia japonica</i> (Thunb.) Gagn.
			ツタ <i>Parthenocissus tricuspidata</i> (Sieb. et Zucc.) Planch.
			ヤマブドウ <i>Vitis coignetiae</i> Pulliat ex Planch.
			シナノキ科 Tiliaceae
			○ オオバボダイジュ <i>Tilia maximowicziana</i> Shirasawa
			スミレ科 Violaceae
●			● タチツボスミレ <i>Viola grypoceras</i> A. Gray
			キブシ科 Stachyuraceae
●			○ キブシ <i>Stachyurus praecox</i> Sieb. et Zucc.
			ウリ科 Cucurbitaceae
			○ キカラスウリ <i>Trichosanthes kirilowii</i> Waxim. var. <i>japonica</i> (Miq.) Kitam.

A	B	C	D
			アカバナ科 Onagraceae
○		○	ミズタマソウ <i>Circarea mallis</i> Sieb.et Zucc.
			ウリノキ科 Alangiaceae
			ウリノキ <i>Alangium platanifolium</i> (Sieb.et Zucc.)Harms var. <i>trilobum</i> (Miq.)Ohwi
			ミズキ科 Cornaceae
○	○	○	ヒメアオキ <i>Aucuba japonica</i> Thunb.var. <i>borealis</i> Miyabe et Kudo
		●	ヤマボウシ <i>Benthamidia japonica</i> (Sieb.et Zucc.)Hara
			ハナイカダ <i>Helwingia japonica</i> (Thunb.)F.G.Dietrich
○	○	○	ミズキ <i>Swida controversa</i> (Hemsl.)Sojak
		●	クマノミズキ <i>S.macrophylla</i> (Wall.)Sojak
			ウコギ科 Araliaceae
○		○	コシアブラ <i>Acanthopanax sciadophylloides</i> Franch.et Sav.
○		●	ウコギ <i>A.spinosus</i> (L.f.)Miq.
		○	ウド <i>Aralia cordata</i> Thunb.
		○	タラノキ <i>A.elata</i> (Miq.)Seem.
○	●		タカノツメ <i>Evodiopanax innovans</i> (Sieb.et Zucc.)Nakai
			キヅタ <i>Hedera rhombea</i> (Miq.)Bean
●	○	○	ハリギリ <i>Kalopanax pictus</i> (Thunb.)Nakai
			セリ科 Umbelliferae
●			シャク <i>Anthriscus aemula</i> Schischkin
●		●	ミツバ <i>Cryptotaenia japonica</i> Hassk.
○			オオハナウド <i>Heracleum dulce</i> Fisch
●			チドメグサ <i>Hydrocotyle sibthorpioides</i> Lam.
○			セリ <i>Oenanthe javanica</i> (Blume)DC.
○			ウマノミツバ <i>Sanicula chinensis</i> Bunge
		●	ヤブジラミ <i>Torillis japonica</i> (Houtt.)DC.

合弁花類 SYMPETALAE

A	B	C	D
			リョウブ科 Clethraceae
○		○	リョウブ <i>Clethra barbinervis</i> Sieb.et Zucc.
			イチヤクソウ科 Pyrolaceae
○			イチヤクソウ <i>Pyrola japonica</i> Klentze
			ツツジ科 Ericaceae
		◎	イワナシ <i>Epigaea asiatica</i> Maxim.
○			コシノハナヒリノキ <i>Leucothoe grayana</i> Maxim.var. <i>hypoleuca</i> Nakai
○			ハナヒリノキ <i>L.var.oblongifolia</i> (Miq.)Ohwi
○		○	ウラジロヨウラク <i>Menziesia multiflora</i> Maxim.
			ムラサキヤシオツツジ <i>Rhododendron albrechtii</i> Maxim.
○		○	レンゲツツジ <i>R.japonica</i> (A.Gray)Suring
○		○	ヤマツツジ <i>R.obtusum</i> (Lindl.)Planch.var. <i>kaempferi</i> (Planch.)Wilson
○			ホツツジ <i>Tripetaleia paniculata</i> Sieb.et Zucc.
○			アクシバ <i>Vaccinium japonicum</i> Miq.
○			ナツハゼ <i>V.oldhamii</i> Miq.
			オオバスのノキ <i>V.smallii</i> A.Gray.
			ヤブコウジ科 Myrsinaceae
●		○	● ヤブコウジ <i>Ardisia japonica</i> (Thunb.)Blume
			サクラソウ科 Primulaceae
○			オカトラノオ <i>Lysimachia clethroides</i> Duby
		●	● コナスビ <i>L.japonica</i> Thunb.
			カキ科 Ebenaceae
○		○	カキ <i>Diospyros kaki</i> Thunb.
			エゴノキ科 Styracaceae
○		○	エゴノキ <i>Styrax japonicus</i> Sieb.et Zucc.
○		○	ハクウンボク <i>S.obassia</i> Sieb.et Zucc.
			モクセイ科 Oleaceae
○		○	○ コバノトネリコ <i>Fraxinus lanuginosa</i> Koidz.form. <i>serrata</i> (Nakai)Murata
			リンドウ科 Gentianaceae
			リンドウ <i>Gentiana scabra</i> Bunge var. <i>buergeri</i> (Miq.)Maxim.
●			● フデリンドウ <i>G.zollingeri</i> Fawc.
●			● ツルリンドウ <i>Tripterospermum japonicum</i> (Sieb.et Zucc.)Maxim.
			ガガイモ科 Asclepiadaceae
		○	○ ガガイモ <i>Metaplexia japonica</i> (Thunb.)Makino

A	B	C	D
			アカネ科 Rubiaceae
○			クルマバソウ <i>Asperula odorata</i> L.
●			ヤエムバソウ <i>Galium spurium</i> L.echinospermon(Wallr.)Hayek
●			○ ツリアリドオシ <i>Mitchella undulata</i> Sieb.et Zucc
○			○ ヘクソカズラ <i>Paederia scandens</i> (Lour.)Merrill
○			● アカネ <i>Rubia argyi</i> (Lev.et Van.)Hara.
			ヒルガオ科 Convolvulaceae
○			○ ネナシカズラ <i>Cuscuta laponica</i> Choisy
			ムラサキ科 Boraginaceae
●			ホタルカズラ <i>Lithospermum zollingeri</i> DC.
●			キュウリグサ <i>Trigonotis peduncularis</i> (Trev.)Benth.
			クマツツラ科 Verbenaceae
○	○		ムラサキシキブ <i>Callicarpa japonica</i> Thunb.
			クサギ <i>Clerodendron trichotomum</i> Thunb.
			シソ科 Labiatae
●			キランソウ <i>Ajuga decumbens</i> Thunb.
			● ナギナタコウジュ <i>Elsholtzia ciliata</i> (Thunb.)Hylander
○			○ カキドオシ <i>Glechoma hederacea</i> L.subsp.grandis(A.Gray)Hara
●			オドリコソウ <i>Lamium album</i> L.var.barbatum(Sieb.et Zucc.)Franch.et Sav.
●			● ヒメオドリコソウ <i>L.purpureum</i> L.
●			● ウツボグサ <i>Prunella vulgaris</i> L.subsp.asiatica(Nakai)Hara
	○		○ タイリンヤマハッカ <i>Rabdosia umbrosa</i> (Maxim.)Hara var.excisiflexa(Nakai)Hara
			ゴマノハグサ科 Scrophulariaceae
●			ムラサキサギゴケ <i>Mazus miquelii</i> Makino
●			サギゴケ <i>M.miquelii</i> Makino Form.albiflorus Makino
●			トキワハゼ <i>M.pumilus</i> (Burm.f.)van Steenis
○			ママコナ <i>Melampyrum roseum</i> Maxim.var.japonicum Franch.et Sav.
○			○ キリ <i>Paulownia tomentosa</i> Steud.
●			タチイヌノフグリ <i>Veronica arvensis</i> L.
●			オオイヌノフグリ <i>V.persica</i> Poir.
●			● クガイソウ <i>Veronicastrum sibiricum</i> (L.)Pennell subsp.japonicum(Nakai)Yamazaki
			ハエドクソウ科 Phrymaceae
			ハエドクソウ <i>Phryma leptostachya</i> L.var.asiatica Hara
			オオバコ科 Plantaginaceae
●			オオバコ <i>Plantago asiatica</i> L.
			ヘラオオバコ <i>P.lanceolata</i> L.
			スイカズラ科 Caprifoliaceae
●			ウゴツクバネウツギ <i>Abelia spathulata</i> Sieb.et Zucc.var.stenophylla Honda
	○		● スイカズラ <i>Lonicera japonica</i> Thunb.
			● ニワトコ <i>Sambucus racemosa</i> L.subsp.sieboldiana(Miq.)Hara
○	○	○	○ ミヤマガマズミ <i>Viburnum wrightii</i> Miq.
●	○		○ タニウツギ <i>Weigela hortensis</i> (Sieb.et Zucc.)K.Koch
			オミナエシ科 Valerianaceae
●			● オトコエシ <i>Patrinia villosa</i> (Thunb.)Juss.
			キキョウ科 Campanulaceae
●			● ツリガネニンジン <i>Adenophora triphylla</i> (Thunb.)A.DC.var.japonica(Regel)Hara
●			● ホタルブクロ <i>Campanula punctata</i> Lam.
			キク科 Compositae
●			● ノブキ <i>Adenocaulon himalaicum</i> Edgew.
			● オクモミジハグマ <i>Ainsliaea acerifolia</i> Sch.-Bip.var.subapoda Nakai
	○		○ オトコヨモギ <i>Artemisia japonica</i> Thunb.
○	○	○	○ ヨモギ <i>A.princeps</i> Pamp.
			ゴマナ <i>Aster glehni</i> Fr.Schm.var.hondoensis Kitam.
○			シラヤマギク <i>A.scaber</i> Thunb.
○			オケラ <i>Atractylodes japonica</i> Koidz.ex Kitam.
			ヤブタバコ <i>Carpesium abrotanoides</i> L.
	○		○ ダキバヒメアザミ <i>Cirsium amplexifolium</i> (Nakai)Kitam.
			ノアザミ <i>C.japonicum</i> DC.
			ダンドボロギク <i>Erichitites hieracifolia</i> (L.)Raf.
○			● ヒメジョオン <i>Erigeron annuus</i> (L.)Pers.
○			○ ヒメムカシヨモギ <i>E.canadaensis</i> L.
			● ヨツバヒヨドリバナ <i>Eupatorium chinense</i> L.subsp.sachalinense(Fr.Schm.)Kitam.
○			ユウガギク <i>Kalimeris pinnatifida</i> (Maxim.)Kitam.
○			○ アキノノゲシ <i>Lactuca indica</i> L.

A	B	C	D
○		○	センボンヤリ <i>Leibnitzia anandria</i> (L.)Turcz.
○			フキ <i>Petasites japonicus</i> (Sieb.et Zucc.)Maxim.
○			メナモミ <i>Siegesbeckia orientalis</i> L.subsp.pubescens(Makino)Kitam.
●			アキノキリンソウ <i>Solidago virgaurea</i> L.subsp.asiatica(Nakai)Kitam.
●			ヤブレガサ <i>Syneilesis palmata</i> (Thunb.)Maxim.
●			オヤマボクチ <i>Synurus pungens</i> (Franach.et Sav.)Kitam.
○			● エゾタンポポ <i>Taraxacum hondoense</i> Nakai ex H.Koidz.
			● セイヨウタンポポ <i>T.officinale</i> Weber
			ヤクシソウ <i>Youngia denticulata</i> (Houtt.)Kitam.

単子葉植物 MONOCOTYLEDONEAE

A	B	C	D
			ユリ科 Liliaceae
●			ヒメニラ <i>Allium monanthum</i> Maxim.
●		○	○ オオウバユリ <i>Cardiocrinum cordatum</i> (Thunb.)Makino var.glehnii(Fr.Schm.)Hara
●	●		ホウチャクソウ <i>Disporum sessile</i> Don
●		●	● チゴユリ <i>D.smilacinum</i> A.Gray
●	●	○	○ ショウジョウバカマ <i>Heloniopsis orientalis</i> (Thunb.)C.Tanaka
●		●	● ヤブカンゾウ <i>Hemerocallis fulva</i> (L.)L.var.kwanso Regel
○			オオバギボウシ <i>Hosta montana</i> F.Maekawa
●		○	○ ヤマユリ <i>Lilium auratum</i> Lindl.
			ククルマユリ <i>L.medeoloides</i> A.Gray
◎			ヒメサユリ <i>L.rubellum</i> Baker
●		●	● ミヤマナルゴユリ <i>Polygonatum lasianthum</i> Maxim.
●		●	● アマドコロ <i>P.odoratum</i> (Miller)Druce var.pluriflorum(Miq.)Ogwi
○		○	○ ツルボ <i>Scilla scilloides</i> (Lindl.)Druce
○		○	● サルトリイバラ <i>Smilax china</i> L.
		○	● ヤマジノホトトギス <i>Tricyrtis affinis</i> Makino
	●		アオヤギソウ <i>Veratrum maackii</i> Regel var.parviflorum(Miq.)Hara et Mizusima
			ヒガンバナ科 Amaryllidaceae
			キツネノカミソリ <i>Lycoris sanguinea</i> Maxim.
			ヤマノイモ科 Dioscoreaceae
○		○	○ ヤマノイモ <i>Dioscorea japonica</i> Thunb.
		○	○ ウチワドコロ <i>D.nipponica</i> Makino
			オニドコロ <i>D.tokoro</i> Makino
			アヤメ科 Iridaceae
○		○	○ シャガ <i>Iris japonica</i> Thunb.
			ツククサ科 Commelinaceae
○		○	○ ツククサ <i>Commelina communis</i> L.
			イネ科 Gramineae
	○	○	○ アキメヒジワ <i>Digitaria violascens</i> Link
		○	○ チヂミザサ <i>Oplismenus undulatifolius</i> (Arduino)Roem.Et Schult.
○		○	○ ススキ <i>Miscanthus sinensis</i> Anderss.
○			アキノエノコログサ <i>Setaria faberi</i> Herrm.
○			キンエノコロ <i>S.glauca</i> (L.)Beauv.
○			オオエノコログサ <i>Setaria x pycnocomma</i> (Steud.)Henr.ex Nakai
○			エノコログサ <i>S.viridis</i> (L.)Beauv.
			タケ科 Bambusaceae
○		○	○ ヤダケ <i>Pseudosasa japonica</i> (Sieb.et Zucc.)Makino
○		○	○ チマキザサ <i>Sasa palmata</i> (Marl.)Nakai
			サトイモ科 Araceae
●	●	●	● キタマムシグサ <i>Arisaema penisulae</i> Nakai subsp.boreat(Nakai)Serisawa
			カヤツリグサ科 Cyperaceae
●			カサスゲ <i>Carex dispalata</i> Boott
			オクノカンスゲ <i>C.foliosissima</i> Fr.Schm.
●		●	● タガネソウ <i>C.siderosticta</i> Hance
○		○	○ ミチノクホンモンジスゲ <i>C.stenostachys</i> Franch.et Sav.var.cuneata(Ohwi)Ohwi et T.Koyama
			ラン科 Orchidaceae
●		●	● サイハイラン <i>Cremastra appendiculata</i> (D.Don)Makino
○		○	○ シュンラン <i>Cymbidium goeringii</i> (Reichb.f.)Reichb.f.
○	●		ヤマサギソウ s p

(平成 22 年 6 月 31 日 現在)

植栽木・果樹 目録

- イチョウ *Ginkgo biloba* L. (イチョウ科)
エドヒガン *Prunus spachiana*(Lavallee ex H.Otto)Kitamura forma *ascendes*(Makino)K.Itamura (バラ科)
ソメイヨシノ *Prunus × yedoensis* Matsum. (バラ科)
ヤマブキ *Kerria japonica*(Thunb.)DC. (バラ科)
スギ *Cryptomeria japonica* D.Don (スギ科)
イチジク *Ficus carica* L. (クワ科)
シャガ *Iris japonica* Thunb. (アヤメ科)
サクランボ *Prunus* ssp. (バラ科)
セイヨウミザクラ *Prunus avium* L.
ブドウ *Vitis vinifera* L.
モモ *Prunus persica* Batsh. (バラ科)
キリ *Paulownia tomentosa* Steud. (ノウゼンカズラ科)
カキ *Diospyros kaki* Thunb. (カキノキ科)
スモモ *Prunus salicina* Lindl. (バラ科)
ヒメコウゾ (コウゾ) *Broussonetia kazinoki* Sieb. (クワ科)
クワ (ヤマクワ) *Morus bombycis* Koidz.
ウルシ *Rhus verniciflua* Stokes (ウルシ科)
モウソウダケ *Phyllostachys heterocycla* Matsum.forma *pubescens* Muroi (イネ科)
イヌエンジュ *Maackia amurensis* Ruprech.et Maxim.var.*burgeri*(Maxim.)Schneid.

参考文献・資料

- 荒井 太四郎編 1878『山形縣地誌堤要』上巻
- 高山 法彦ほか 1965『巨海院山門史』
- 山形県神社庁西村支部 1978『山形県神社庁西村山支部神社誌』
- 大江町教育委員会編 1982『大江町史資料』第十二号（『宗古録』ほか収録）
- 大江町教育委員会編 1984『大江町史』
- 大江町教育委員会編 1985『大江町史 地誌編』
- 山形県編 1986『土地分類基本調査』左沢5万分の1国土調査
- 大江町教育委員会編 1986『大江町史 年表編』
- 大江町老人クラブ連合会編 1987『大江町の祭り』
- 左沢楯山城跡調査検討委員会編 1994『左沢楯山城跡調査検討委員会報告』
- 左沢楯山城跡関連調査委員会編 1995～1998『左沢楯山城跡関連調査委員会報告』
- 杵澤 喜代次 1995『歴史の証言』
- 金山 耕三 1996「左沢御領内御絵図」『西村山の歴史と文化』Ⅲ
- 北畠 教爾 1996「西村山地区 中世城館の分布と特徴」『山形県中世城館遺跡調査報告書』第2集（村山地域）
- 横山 昭男ほか 1998『山形県の歴史』山川出版社
- 松田 進ほか 1998『大江の民話』無心塾
- 伊藤 清郎ほか 1999～2006『左沢楯山城跡調査報告書』（1）～（8）
- 大江町教育委員会編 1999『大江町史資料』第十四号（絵図・地図）
- 松田 進ほか 2000『七軒東の郷土史』
- 環境省自然環境局生物多様性センター 2000「第6回・第7回自然環境保全基礎調査 植生調査」
- 大場 雅之 2002「出羽国南部の城館」『中世出羽の領主と城館』
- 市村 高男 2002「中世出羽の海運と城館」『中世出羽の領主と城館』
- 金山 亮 2002『光明院（金山家）の来歴』
- 伊藤 清郎ほか 2007『左沢楯山城跡調査報告書』（9）
- （大場 雅之「Ⅲ縄張」、日下部 美紀「Ⅳ 遺構と遺物」、川崎 利夫「Ⅴ考察 1 出土遺物からみた左沢楯山城跡」
宮本 長二郎「Ⅴ考察 2 左沢楯山城跡の建造物」、北畠 教爾「Ⅴ考察 3 文献からみた左沢楯山城跡」、横山 勝
栄「Ⅴ考察 4 大江町の中世城館」、伊藤 清郎「Ⅴ考察 5 成果と調査」）
- 大江町教育委員会編『大江町史近現代編』
- 上田 美紀 2008『左沢楯山城跡』
- 入間田 宣夫ほか 2010『大江町の文化的景観調査報告書』
- 大江町教育委員会編 2010『左沢楯山城跡保存管理計画書』
- 山形県教育委員会 2011『「最上川流域の文化的景観」調査報告書』
- 入間田 宣夫ほか 2012『大江町と最上川の流通・往來の景観保存調査報告書』
- 大江町編『広報おおえ 縮刷版』第1巻～第3巻
- 大江町教育振興計画（2010）、大江町総合計画（第9次）、大江町景観計画（2007）

史跡左沢楯山城跡保存整備基本構想策定報告書

平成 24 年 3 月 31 日

発行 大江町教育委員会

〒 990 - 1163 山形県西村山郡大江町大字本郷丁 373 - 1

電話 0237 (62) 3666

印刷 寒河江印刷 株式会社

〒 991 - 0061 山形県寒河江市中央工業団地 58